

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 2023

2023（令和5）年11月10日（金）～11日（土）

茨城県筑西市 ザ・ヒロサワ・シティ



ザ・ヒロサワ・シティ レールパーク

ごあいさつ

いつも日本鉄道保存協会の活動を支えてくださりありがとうございます。
当協会は、1991年（平成3年）に発足以来、2023年（令和5年）で32年を迎えます。30周年を過ぎてしまい、うっかり周年事業を行うことを失念してしまいました。どうぞ、お許してください。こうなると40周年、あるいは50周年記念など将来の夢が芽生えてきそうで、嬉しくなります。

思いおこせば、設立時には色々なことがありました。もちろん横やりもありました。英文字でJRPSと名乗ったら、「お前か？俺たちの団体設立の邪魔をするな」とお叱りを受けました。また、「市民団体、自治体、JR、私鉄などが加盟する団体なんて上手くいかない」とご助言まで頂きました。そのたびに相談したのが、青木栄一、小池滋、松澤正二さんら当協会の顧問の方々でした。皆様、そんな事は、気にせず、楽しく進めようと励ましてくれました。特に小池滋先生は、「楽しく、焦らず、末永く」と笑顔でアドバイスしてくださり、そのたびに心が和み、救われました。以来、「楽しく、焦らず、末永く」が活動の合い言葉になったのです。いつも暖かく見守って下さった皆様は、お亡くなりになってしまいました。しかし、今も皆様への感謝を忘れず、そのお言葉を大切にしております。

そして、英国の環境団体であるナショナルトラストやシビックトラストのボランティア活動に接することで、言葉の意味合いを理解できるようになりました。会員の皆さまと力を合わせて将来にわたり、鉄道遺産の保全、活用を「明るく、楽しく、焦らず、末永く」を合い言葉に推進いたして参ります。

引き続き、格別のご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年11月10日
日本鉄道保存協会

事務局長 米山 淳一

日本鉄道保存協会

2023年度総会・見学会プログラム

日時： 2023年（令和5年） 11月10日（金）～11日（土）

開催地： ザ・ヒロサワ・シティ（茨城県筑西市）

- 11月10日（金） 集合 広沢商事1階受付
会場 広沢商事本社2階講堂
受付開始 13：30～
- 14：00 総会開始
主催者挨拶 交通協力会顧問・日本鉄道保存協会顧問 菅 建彦
代表幹事団体挨拶 公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事 米山淳一
- 15：30 開催地報告（1）
「自然・健康・文化の郷（まち）づくり ザ・ヒロサワ・シティ」
広沢商事株式会社専務取締役 野口稔夫
- 開催地報告（2）
「茨城県筑西市の紹介」
筑西市役所土木部都市整備課主任 大門智子
- 16：15 シンポジウム「歴史的鉄道車両の修復・保存・管理への挑戦」
基調講演 「難物 PCB、アスベストの処理と対策」
北九州線車輛保存会 手嶋康人
(パネリスト) 小樽総合博物館学芸員 佐藤卓司
小坂鉄道保存会総務企画局長 亀沢 修
碓氷峠交流記念財団事務局 小崎正人
- (コーディネーター) 日本鉄道保存協会顧問・高崎経済大学名誉教授 大島登志彦

17:15 総括・閉会挨拶

日本鉄道保存協会顧問

花上嘉成

18:00 交流会開始

※『ユメノバ』内のレストランにて

11月11日(土)

9:00 『ユメノバ』見学会開始

11:30 昼食

昼食会場 「ユメノバ内レストラン」または北斗星車内

●昼食後、自由解散

日本鉄道保存協会(RPSJ)2023年度総会 出欠一覧表

2023年10月26日 現在

| 資格 | 所属 | 役職 | 氏名 | 総会 | 交流会 | 宿泊 | 見学会 |
|-----|----------------------|-----------------|-------------|----|-----|----|-----|
| 顧問 | 公益財団法人 交通協会 | 顧問 | 菅 建彦 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 顧問 | 一般財団法人 東武博物館 | | 花上 嘉成 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 顧問 | 元三菱地所株式会社・鉄道史家 | | 辻 聡 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 顧問 | 高崎経済大学 | 名誉教授 | 大島 登志彦 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 遠軽町(旧丸瀬布町) | 丸瀬布支所産業課 | 係長 上戸 智仁 | / | / | / | / |
| 正会員 | 陸別町商工会 | (ふるさと銀河線りくべつ鉄道) | 事務局長 杉本 武勝 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 三笠市(三笠鉄道村) | 商工観光課商工観光係 | 主事 小笠原 玲夢 | / | / | / | / |
| 正会員 | 三菱大夕張鉄道保存会 | | 事務局長 今井 一郎 | / | / | / | / |
| 正会員 | NPO法人 オホーツク鉄道歴史保存会 | | 理事長 長南 進一 | / | / | / | / |
| 正会員 | 北海道旅客鉄道株式会社(JR北海道) | 運輸部運用課 | 松田 道規 | / | / | / | / |
| 正会員 | えべつ1/1会 | | 会長 石田 武史 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | えべつ1/1会 | | 近藤 剛 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 有島記念館(ニセコ鉄道遺産群) | | 学芸員 伊藤 大介 | / | / | / | / |
| 正会員 | 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会 | | 小川 清之 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 七百レールファンクラブ(七百鉄道記念館) | | 副会長 野田 悟 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 小坂鉄道保存会(小坂鉄道レールパーク) | | 会長 千葉 裕之 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 小坂鉄道保存会(小坂鉄道レールパーク) | | 副会長 吉野 幸裕 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 小坂鉄道保存会(小坂鉄道レールパーク) | | 総務企画局長 亀沢 修 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 小坂鉄道保存会(小坂鉄道レールパーク) | | 大谷 清次 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 栗原市(くりはら田園鉄道公園) | くりでんミュージアム | 千田 順一 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 栗原市(くりはら田園鉄道公園) | くりでんミュージアム | 学芸員 高橋 尚史 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 東北鉄道資料保存協議会 | (みちのく鉄道応援団) | 代表幹事 佐藤 茂 | / | / | / | / |
| 正会員 | 真岡線SL運行協議会 | | 上野 雅士 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 真岡線SL運行協議会 | | 河上 好一 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 真岡線SL運行協議会 | | 間宵 嘉明 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 一般社団法人 あしおトロッコ館 | 総務担当 | 岡本 憲之 | ◎ | ○ | × | × |
| 正会員 | 一般社団法人 あしおトロッコ館 | | 北川 潤 | ◎ | ○ | × | × |
| 正会員 | 鹿島鉄道保存会(鹿島鉄道記念館) | 代表 | 加藤 三千尋 | ◎ | ○ | × | × |
| 正会員 | 鹿島鉄道保存会(鹿島鉄道記念館) | 副代表 | 長津 博樹 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 鹿島鉄道保存会(鹿島鉄道記念館) | 副代表 | 野澤 秀幸 | ◎ | ○ | × | × |
| 正会員 | 鹿島鉄道保存会(鹿島鉄道記念館) | 参与 | 木瀬 若桜 | ◎ | ○ | × | × |
| 正会員 | 鹿島鉄道保存会(鹿島鉄道記念館) | 参与 | 大庭 亮胤 | ◎ | ○ | × | × |
| 正会員 | 銚田駅保存会 | 理事 | 川津 重夫 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 銚田駅保存会 | | 岡野 利通 | × | ○ | × | × |
| 正会員 | ザ・ヒロサワ・シティ | (レールパーク) | 野口 稔夫 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | ザ・ヒロサワ・シティ | (レールパーク) | 石川 知明 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | ザ・ヒロサワ・シティ | (レールパーク) | 宇尾野 智 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 一般社団法人 碓氷峠交流記念財団 | (碓氷峠鉄道文化むら) | 事務局長 小崎 正人 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 一般社団法人 電鉄文化保存会 | | 岩崎 直彦 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 日本工業大学 | 工業技術博物館 | 五月女 浩樹 | / | / | / | / |
| 正会員 | 秩父鉄道株式会社 | 技術部車両課 | 木村 壮史 | / | / | / | / |
| 正会員 | 東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) | 総務・法務戦略部 | 安藤 文人 | / | / | / | / |
| 正会員 | 公益財団法人 東日本鉄道文化財団 | 鉄道博物館 | 岩見 隆則 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 一般財団法人 東武博物館 | | 管理課長 伊藤 美千夫 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 公益財団法人 日本ナショナルトラスト | 事業課 | 大久保 優美 | / | / | / | / |
| 正会員 | 公益財団法人 交通協会 | 顧問 | 菅 建彦 | / | / | / | / |
| 正会員 | 清瀬市 | | 市長 澁谷 桂司 | ◎ | ○ | × | ○ |
| 正会員 | 清瀬市 | 経営政策部 | 木原 雄嗣 | ◎ | ○ | × | ○ |
| 正会員 | 横浜市電1156号保存会 | 代表 | 齋藤 大起 | / | / | / | / |
| 正会員 | 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 | 会長 | 古賀 学 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 新潟市新津鉄道資料館 | 副館長 | 加藤 裕之 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 上松町(赤沢森林鉄道) | 産業観光課 | 織田 藍 | / | / | / | / |
| 正会員 | 信濃濃分駅舎・可惜(あたり)会 | | 河合 桃子 | / | / | / | / |
| 正会員 | 足久保鐵道株式会社 | 代表取締役 | 玉井 宏政 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 大井川鐵道株式会社 | 鉄道部長 | 坂本 光司 | / | / | / | / |
| 正会員 | 東海旅客鉄道株式会社(JR東海) | リニア・鉄道館 | 運営企画 加藤 清隆 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 公益財団法人 明治村(博物館明治村) | 主任 | 近藤 雅隆 | / | / | / | / |
| 正会員 | NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会 | 理事長 | 村上 真善 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | NPO法人 神岡・町づくりネットワーク | レールマウンテンバイク事務局 | 田口 由加子 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 公益社団法人 長浜観光協会 | (長浜鉄道スクエア) | 主査 梅園 いつ子 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 | 事務局(敦賀市) | 高島 真珠子 | ◎ | ○ | ○ | ○ |

| 資格 | 所属 | 役職 | 氏名 | 総会 | 交流会 | 宿泊 | 見学会 |
|--------|-----------------------|------------------|-------------|----|-----|----|-----|
| 正会員 | NPO法人 貨物鉄道博物館 | 常務理事 | 南野 哲志 | | | | |
| 正会員 | 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) | 鉄道文化推進室 | 川口 穂高 | ◎ | × | × | × |
| 正会員 | 公益財団法人 交通文化振興財団 | 交通資料調査センター | センター長 川端 英登 | | | | |
| 正会員 | 宮津海陸運輸株式会社 | (加悦SL広場) | 管理課長 柴田 万喜也 | | | | |
| 正会員 | NPO法人 加悦鐵道保存会 | 理事長 | 上野山 博己 | | | | |
| 正会員 | 片上鐵道保存会 | 代表幹事 | 甲本 康則 | | | | |
| 正会員 | 若桜駅を元気にする会 | 若桜町役場企画政策課 | 北内 泰久 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | NPO法人 市民文化財ネットワーク鳥取 | 事務局長 | 太田 緑 | | | | |
| 正会員 | 山口線SL運行対策協議会 | 山口県 観光プロモーション推進室 | 山本 康幸 | | | | |
| 正会員 | 西条市(鉄道歴史パーク in SAIJO) | 観光推進課 | 渡部 泰 | ◎ | ○ | × | ○ |
| 正会員 | 馬路村(魚梁瀬森林鉄道) | 魚梁瀬支所 | 山内 忍 | | | | |
| 正会員 | 宇高連絡船愛好會 | 代表 | 三村 卓也 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 正会員 | 九州旅客鉄道株式会社(JR九州) | 広報部 | 中村 智和 | | | | |
| 正会員 | 北九州線車輛保存会 | 代表 | 手嶋 康人 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 賛助会員 | 株式会社鉄道ジャーナル社 | 編集部 | 伊藤 丈志 | | | | |
| 賛助会員 | 日本鉄道写真作家協会 | 会長 | 猪井 貴志 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 賛助会員 | 日本鉄道写真作家協会 | | 藤井 博信 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 賛助会員 | 有限会社 レイルマンフォトオフィス | 会長 | 山崎 友也 | | | | |
| 賛助会員 | 有限会社鉄道フォーラム | 代表取締役 | 伊藤 博康 | | | | |
| 賛助会員 | 株式会社井門コーポレーション | | 丹下 昭英 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 賛助会員 | 株式会社東海汽缶 | 取締役業務統括部長 | 石川 寛之 | | | | |
| 賛助会員 | 株式会社ヤマネ | 技術部課長 | 高見 浩 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 賛助会員 | 株式会社ヤマネ | | 秋岡 佑輔 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 安倍 敏陽 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 阿部 豊 | | | | |
| 友の会会員 | | | 岩野 弘一 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 神崎 史恵 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 倉繁 聡 | ◎ | ○ | × | × |
| 友の会会員 | 小樽市総合博物館 | | 佐藤 卓司 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 柴山 純一 | | | | |
| 友の会会員 | | | 杉崎 行恭 | × | × | × | ○ |
| 友の会会員 | | | 須藤 哲也 | ◎ | ○ | × | × |
| 友の会会員 | | | 関田 克孝 | | | | |
| 友の会会員 | | | 関本 康人 | | | | |
| 友の会会員 | | | 瀬端 浩之 | | | | |
| 友の会会員 | | | 橋 秀幸 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 田中 浩史 | | | | |
| 友の会会員 | | | 塚本 健太 | × | × | × | ○ |
| 友の会会員 | | | 長野 光芳 | | | | |
| 友の会会員 | | | 名取 紀之 | | | | |
| 友の会会員 | | | 西尾 恵介 | | | | |
| 友の会会員 | | | 野田 知毅 | | | | |
| 友の会会員 | | | 畠山 明久 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 友の会会員 | | | 水野 弥彦 | | | | |
| オブザーバー | 株式会社ジェイアール四国企画 | 営業部長 | 松本 新一 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オブザーバー | 機関車C5631号保存会 | 技術局 | 後藤 優斗 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オブザーバー | 小田急エージェンシー | ロマンスカーミュージアム | 日暮 成一 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オブザーバー | | | 山崎 朗 | ○ | ○ | × | ○ |
| オブザーバー | 王寺町役場 | 地域交流課文化資源活用係 | 岡島 永昌 | | | | |
| オブザーバー | 四国旅客鉄道株式会社 | | 長戸 正二 | | | | |
| オブザーバー | 特定非営利活動法人語りつぐ青函連絡船の会 | | 高橋 撰 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オブザーバー | | | 笹沼 健史 | ○ | ○ | × | × |
| オブザーバー | | | 大内 海香 | ○ | × | × | ○ |
| オブザーバー | | | 大内 渉 | ○ | × | × | ○ |
| オブザーバー | | | 上村 宗貴 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オブザーバー | トラベルライター | | 白川 淳 | ○ | × | × | × |
| オブザーバー | 九州旅客鉄道株式会社(JR九州) | 地域戦略部 | 堀 篤史 | | | | |
| オブザーバー | | | 三瓶 嶺良 | ○ | ○ | × | × |
| 事務局 | 日本鉄道保存協会 | 事務局長 | 米山 淳一 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 事務局 | 日本鉄道保存協会 | 友の会会員 | 事務局 河合 桃子 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 事務局 | 日本鉄道保存協会 | 友の会会員 | 事務局 田中 光一 | ◎ | ○ | × | ○ |
| 事務局 | 日本鉄道保存協会 | 友の会会員 | 事務局 赤羽 誠 | ◎ | ○ | ○ | ○ |

日本鉄道保存協会 会員名簿

2023.10.23.現在

<凡 例>

| | |
|----|---------------|
| 番号 | 団体名(施設名) |
| 〒 | 団体所在地 / 連絡先住所 |
| | 電話番号 / Fax 番号 |
| | 団体代表者名 |
| | RPSJ 担当者名 (☆) |

正 会 員

- 01 遠軽町 (旧丸瀬布町)
〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所 産業課
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128
- 町 長 佐々木修一
係 長 上戸 智仁 (☆)
- 02 陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)
〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791
- 会 長 石橋 強
事務局長 杉本 武勝 (☆)
- 03 三笠市 (三笠鉄道村)
〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所 経済建設部商工観光課 商工観光係
Tel 01267-2-3997 Fax 01267-2-7880
- 市 長 西城 賢策
主 事 小笠原玲夢 (☆)
- 04 三菱大夕張鉄道保存会
〒069-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel 011-387-4783
- 事務局長 今井 一郎 (☆)
- 05 NPO 法人オホーツク鉄道歴史保存会
〒090-1817 北見市常盤町 2-4-53
Tel 090-9524-9315
- 理事長 長南 進一 (☆)
- 06 北海道旅客鉄道株式会社
〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786
- 代表取締役社長 綿貫 泰之
運輸部運用課 松田 道規 (☆)

- 07 えべつ1/1会
〒067-0012 江別市2条2丁目6 旧北陸銀行内
Tel 090-9967-1971
- 会長 石田武史 (☆)
- 08 有島記念館 (ニセコ鉄道遺産群)
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57
Tel 0136-44-3245 Fax 0136-55-8484
- 館長 寺嶋 弘道
学芸員 伊藤大介 (☆) 新入会
- 09 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会
〒133-0051 江戸川区北小岩2-14-2-111号
Tel 03-3672-7709
- 代表理事 星野 正博 (☆)
- 10 七百レールファンクラブ (七百鉄道記念館)
〒336-0926 さいたま市緑区東浦和7-4-12-103
Tel 070-6528-2629
- 会 長 斎藤 正
副会長 野田 悟 (☆)
- 11 小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)
〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山古川20-9
小坂鉄道レールパーク気付
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002
- 代 表 千葉 裕之
総務企画局長 亀沢 修 (☆)
- 12 栗原市 (くりはら田園鉄道公園)
〒987-2252 宮城県栗原市築館薬師1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel 0228-22-1125 Fax 0228-22-0313
- 市 長 佐藤 智
企画部企画課 佐藤 喬 (☆)
- 13 東北鉄道資料保存協議会 (みちのく鉄道応援団)
〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3
Tel 090-6854-9258 Fax 022-248-9258
- 代表幹事 佐藤 茂 (☆)
- 14 真岡線SL運行協議会
〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285-82-9152
- 会 長 (真岡市長) 石坂 真一
事務局長 菊地 高樹
担 当 間宵 嘉明 (☆)

- 15 一般社団法人 あしおトロッコ館
〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax 0288-93-0189
- 総務担当 岡本 憲之 (☆)
- 16 鹿島鉄道保存会 (鹿島鉄道記念館)
〒113-0033 文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel 03-5802-2755 Fax 03-3818-2700
- 代 表 加藤三千尋 (☆)
- 17 鉾田駅保存会
〒310-0001 水戸市上河内町 162
Tel・Fax 029-239-6735
- 理 事 川津 重夫 (☆)
- 18 ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)
〒308-0811 茨城県筑西市茂田 ザ・ヒロサワ・シティ
株式会社広沢商事内
Tel 0296-21-1234 Fax 0296-24-7837
- 代 表 廣澤 清
担 当 野口 稔夫 (☆)
- 19 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 (碓氷峠鉄道文化むら)
〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111
- 代表理事 富安 良司
館 長 山岸由美子
事務局長 小崎 正人 (☆)
- 20 一般社団法人 電鉄文化保存会
〒331-0802 さいたま市北区本郷町 313 蓮見住宅 C-3
- 代 表 日暮 成一 (☆)
担当 岩崎 直彦 (☆)
- 21 日本工業大学 (工業技術博物館)
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570
- 学 長 竹内 貞雄
館 長 清水 伸二
技 術 五月女浩樹 (☆)
- 22 秩父鉄道株式会社
〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551
- 代表取締役社長 牧野 英伸
技術部車両課 木村 壮史 (☆)

- 23 東日本旅客鉄道株式会社
〒151-8578 渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352
- 代表取締役社長 深澤 祐二
総務・法務戦略部 安藤 文人 (☆)
- 24 公益財団法人 東日本鉄道文化財団
〒330-0852 さいたま市大宮区大成 3-47 鉄道博物館
Tel 048-651-0088 Fax 048-651-0570
- 会 長 清野 智
学芸部 五十嵐健一 (☆)
- 25 一般財団法人 東武博物館
〒131-0032 墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814
- 理事長 三輪 裕章
専務理事・館長 山田 智則
管理課長 伊藤三千夫 (☆)
- 26 公益財団法人 日本ナショナルトラスト
〒102-0083 千代田区麴町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190
- 会 長 安富 正文
事業課 大久保優美 (☆)
- 27 公益財団法人 交通協力会
〒100-0005 千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903
Tel 03-6269-9808 Fax 03-6269-9809
- 顧 問 菅 建彦 (☆)
- 28 清瀬市
〒204-8511 清瀬市中里 5-842
Tel 042-492-5111 Fax 042-492-2415
- 市 長 澁谷 桂司
経営政策部 木原 雄嗣 (☆) 新入会
- 29 横浜市電 1156 号保存会
〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部
Tel 090-9015-3707
- 代 表 齊藤 大起 (☆)
- 30 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)
〒231-8445 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405
Tel 045-651-1730
- 会 長 古賀 学
常務理事 米山 淳一 (☆)

- 31 新潟市新津鉄道資料館
〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課 新津鉄道資料館
Tel 0250-24-5700 Fax 0250-25-7808
- 館長 高山 栄一
副館長 加藤 裕之 (☆)
- 32 上松町 (赤沢森林鉄道)
〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-4804 Fax 0264-52-1038
- 町長 大屋 誠
商工観光係 織田 藍 (☆)
- 33 信濃追分駅舎・可惜 (あたらし) 会 ※新規加入
長野県軽井沢町追分
Tel 090-7704-1918 (河合☆)
- 代表 那須 由莉
担当 河合 桃子 (☆)
- 34 足久保鐵道株式会社
〒420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel 054-207-7444
- 代表取締役 玉井 宏政 (☆)
- 35 大井川鐵道株式会社
〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 町目 1112-2
Tel 0547-45-4111 Fax 0547-45-4115
- 代表取締役社長 鈴木 肇
鐵道部長 坂本 光司 (☆)
- 36 東海旅客鐵道株式会社 (リニア・鐵道館)
〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2 リニア・鐵道館
Tel 052-389-6100 Fax 052-389-6101
- 代表取締役社長 丹羽 俊介
館長 岡部 仁
副館長 藤本 幸輝
運営企画 加藤 清隆 (☆)
- 37 公益財団法人 明治村 (博物館明治村)
〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地
Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358
- 館長 中川 武
主任 近藤 雅隆 (☆)

- 38 NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会
〒463-0032 名古屋市守山区白山 1-708
Tel 090-4860-4664
- 理事長 村上 真善 (☆)
- 39 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク
〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2
Tel 090-2454-1506 Fax 0578-82-6677
- 理事長 鈴木 進悟
レールマウンテン
バイク事務局 田口由加子 (☆)
- 40 公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)
〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel 0749-63-4091 Fax 0749-64-0396
- 館長 今井 克美
主査 梅園いつ子 (☆)
- 41 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会
〒914-8501 福井県敦賀市中央町 2-1-1
Tel 0770-22-8128 Fax 0770-22-8184
- 事務局 (敦賀市) 高鳥 美珠子 (☆)
- 42 NPO 法人 貨物鉄道博物館
〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142
- 館長 伊藤 則人
常務理事 南野 哲志 (☆)
- 43 西日本旅客鉄道株式会社
〒530-8341 大阪市北区芝田 2-4-24
Tel 06-6375-2176 Fax 06-6376-6053
- 代表取締役社長 長谷川一明
鉄道文化推進室 川口 穂高 (☆)
- 44 公益財団法人 交通文化振興財団
〒531-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-26 天神第一ビル 1004
Tel 06-6309-5113 Fax 06-6309-5114
- 理事長 長谷川一明
専務理事 前田 昌裕
交通調査センター長 川端 英登 (☆)
- 45 宮津海陸運輸株式会社 (加悦 SL 広場)
〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel 0772-42-3186 Fax 0772-42-5300
- 代表取締役 野田 真人
管理課長 柴田万喜也 (☆)

- 46 NPO 法人 加悦鐵道保存会
〒629-2403 京都府与謝野町加悦 433 旧加悦鐵道加悦駅舎内
Tel&Fax 0772-43-0232
- 理事長 上野山博己 (☆)
- 47 片上鐵道保存会
〒708-0001 岡山県津山市小原 149-5
Tel 090-7896-4858
- 代表幹事 甲本 康則 (☆)
- 48 若桜駅を元気にする会
〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場企画政策課
Tel 0858-82-2231 Fax 0858-82-0134
- 会 長 丹松 正信
事務局 谷本 剛
事務局 北内 泰久 (☆)
- 49 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取
〒680-0022 鳥取市西町 1-106
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103
- 理事長 渡辺 一正
事務局長 太田 縁 (☆)
- 50 山口線 SL 運行対策協議会
〒753-8501 山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部 観光プロジェクト推進室
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179
- 会 長 三坂 啓司
観光プロモーション
推進室 山本 康幸 (☆)
- 51 西条市 (鐵道歴史パーク in SAIJO)
〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164
Tel 0897-56-5151 Fax 0897-52-1200
- 市 長 玉井 敏久
観光振興課 渡部 泰 (☆)
- 52 馬路村 (魚梁瀬森林鐵道)
〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鐵道運営委員会
Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208
- 村 長 山崎 出
魚梁瀬支所 山内 忍 (☆)
- 53 宇高連絡船愛好會
〒706-0011 岡山県玉野市宇野 5-21-13
Tel 0863-32-4081
- 代 表 三村 卓也 (☆)

54 九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21

Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898

代表取締役社長
広報部

古宮 洋二
中村 智和 (☆)

55 北九州線車輛保存会

〒818-0071 福岡県筑紫野市大字山家 4930-1

Tel 070-4171-7738

代 表

手嶋 康人 (☆)

賛助会員

01 株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072 千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F

Tel 03-3264-1891 Fax 03-3265-3597

編集長 宮原 正和
編集部 伊藤 丈志 (☆)

02 日本鉄道写真作家協会

〒160-0023 新宿区西新宿 7-5-14 井上ビル 12号館 9階

有限会社マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ内

会長 猪井 貴志
事務局 長根 広和 (☆)

03 有限会社 レイルマンフォトオフィス

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504

Tel 03-5212-2045 Fax 03-5212-2046

会長 山崎 友也 (☆)

04 有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57

Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310

代表取締役 伊藤 博康 (☆)

05 株式会社井門コーポレーション

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-15-3

Tel 03-3450-1112 Fax 03-3450-2516

代表取締役社長 井門 義博 (☆)

06 株式会社東海汽缶

〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎 970

Tel 054-346-6688 Fax 054-346-6430

取締役業務統括部長 石川 寛之 (☆)

07 株式会社ヤマネ

〒561-0831 大阪府豊中市庄内西町 5-1-76

Tel 06-6332-0157 Fax 06-6332-7086

代表取締役社長 林 圭祐
技術部課長 高見 浩 (☆)

友の会 会員 (五十音順)

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 赤羽 誠 | 阿部 豊 | 岩野 弘一 | 加藤 圭哉 | 河合 桃子 |
| 佐藤 卓司 | 倉繁 聡 | 柴山 純一 | 須藤 哲也 | 関田 克孝 |
| 関本 康人 | 瀬端 浩之 | 橘 秀幸 | 田中 光一 | 田中 浩史 |
| 塚本 健太 | 長野 光芳 | 名取 紀之 | 西尾 恵介 | 野田 知毅 |
| 畠山 明久 | 水野 彌彦 | 杉崎 行恭 | 神崎 史恵 | 安倍 敏陽 |

以 上

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正

団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://rikubetsu-railway.jimdo.com/>

Email r_rail@rikubetsu.ltd

☆ 気動車運転体験が出来る観光鉄道 ☆

【営業期間】(令和5年度)

4月22日(土)～10月31日(火)

【気動車運転体験】

CR70・75型車両を運転士の指導を受けながら運転していただくコースです。

2ヶ月前からホームページ又は電話にて予約受付
(Sコースは空きがあれば当日運転可能)

【Sコース】15分程度の運転体験

料 金：2,000円

対 象 者：小学生以上

【Lコース】80分程度で講習・出区点検・ポイント切替・運転体験等

料 金：20,000円

対 象 者：18歳以上

【銀河コース】80分程度で構外運転1.6km

料 金：30,000円

対 象 者：18歳以上

条 件：Lコースの体験者、18歳以上

【新銀河コース】80分程度で構外運転2.8km

料 金：35,000円

条 件：銀河コースの体験者、18歳以上

【分線コース】80分程度で構外運転2.8km

料 金：60,000円

条 件：新銀河コースの体験者、18歳以上

【銀河コースパックセット】

Lコース、銀河コース、新銀河コース、分線コース
を2日以上連続でご利用される方には、町内無料宿泊券(2食付)がつきます。(なか日のみ)

＜令和5年度事業経過＞

2008年4月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は今年開業15周年記念事業を7月22日～23日に開催し、花火列車・鉄道アイドル列車・映画上映列車を運行しました。2010年には「日本鉄道保存協会全国大会」が陸別町で開催され、2012年より1.6km構外に延伸した運転体験「銀河コース」を開設。翌年トロッコ周回路400mを設置し、同年9月に「銀河鉄道999」の原作者「松本零士氏」を招いてメーテル号を特別運行！夜はりくべつ銀河の森天文台で講演とサイン会のコラボイベントを開催しました。2020年より、構外2.8kmまでの「新銀河コース」翌年には陸別駅～分線駅まで1駅まるごと運転体験出来る「分線コース」5.7kmを開設しました。今年は、排雪モーターカー運転体験ポイント切替えコースを新設実施。



＜りくべつ鉄道開業15周年記念事業＞

【気動車乗車体験】

CR75(銀河鉄道999列車)を使用して運行しております。

料金：(構内) 中学生以上300円、
小学生 200円
小学生未満無料

(構外) 中学生以上500円

小学生 300円

小学生未満無料

【トロッコ体験】

足こぎ式トロッコで1周400m

料金：中学生以上300円・小学生200円
小学生未満無料

【ハイモ運転体験ポイント切替コース】

60分程度で排雪モーターカー運転操作体験

4番線⇄5番線への自前ポイント切替体験有り

料 金：20,000円

対 象 者：18歳以上



＜令和5年度イベント＞

- 4月22日(土) 令和5年度 営業開始
- 5月 5日(金) こどもの日 構外特別運行
- 7月22日(日) りくべつ鉄道まつり 構外特別運行
- 8月12日(土) 夏休み 構外特別運行
- 9月24日(日) 網走線開業記念 構外特別運行
- 10月14日(土) 鉄道の日記念 構外特別運行
- 10月31日(火) 令和5年度 営業最終日

| | | |
|-----|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 北海道三笠市 | 〒068-2192 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 Tel : 01267-2-3997 Fax : 01267-2-7880 Email : kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL : http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/ |
| 施設名 | 三笠鉄道村 | 〒068-2145 北海道三笠市幌内町2丁目 三笠鉄道記念館 Tel : 01267-3-1123 Fax : 01267-2-6965 Email : tetsudoumura@s-304.com URL : http://www.s-304.com |

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和62年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・SL部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■SL運行（乗車1回300円）

運行日………4月29日から

10月15日までの土・日・祝日

※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、

休館日を除き毎日運行。

土曜………12:00始発～16:00発最終

日曜・祝日…10:00始発～16:00発最終

※30分毎の発車です。

ただし、12:30発の便はありません。

■SL機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分足らずのわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も850人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

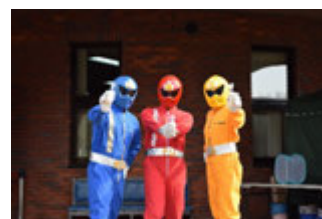


■イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを開催。イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぽっぽレンジャー」が登場！昔懐かしいどん菓子の実演、無料配布その他、大道芸人によるステージショーや今流行りのキッチンカーも大集合しました。

《今年の開催イベント》

- ・5月3日～5日…[楽しさ無限大 春の鉄道村まつり]
- ・8月13日～15日…[HAZIKETE ASOBE 夏の鉄道村まつり]
- ・10月7日～8日…[あそんで発見!! 秋の三笠鉄道村まつり]



■教育旅行の受け入れ

毎年、三笠ジオパークの活動と連動し、教育旅行の受け入れを行っており、日本の近代化や北海道開拓を支え、幌内炭鉱から採掘された石炭を本州へ輸送するため、北海道で最初に敷設された幌内鉄道の歴史を多くの学生の皆さんに学んでいただきました。受け入れ人数も着実に伸びてきており、更なる教育プログラムの推進に力を入れていきたいと考えております。

| | | |
|-----|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 特定非営利活動 オホーツク鉄道歴史保存会 | 〒090-0817 北見市常盤町 2-4-52 Tel : 090-9524-9315 Fax : 0157-31-0373 URL : https://www.orhps.org Email : info@orhps.org 担当者：理事長 長南進一 |
|-----|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

「アスベスト除去」クラウドファンディングに挑戦して

#北海道 #地域文化 #歴史 #鉄道

オホーツクの鉄道史を未来へ繋ぐ！旧国鉄車両7両の修復を【第二弾】

主催者 オホーツク鉄道歴史保存会



- 実施期間：2023/07/05
～ 2023/08/31 (57日間)
- 支援数：403件
- 支援金額：10,136,000円
- 第一目標額 6,000,000円
(169%)
- プラットフォーム：readyfor

アスベスト処理を掲げた全国初のクラウドファンディング

歴史的鉄道車両の修復保存を目的として、多くのクラウドファンディング（CF）が取り組まれているなかで、私どもが取り組んだのは北海道専用の急行列車として開発されたキハ27です。寒冷地仕様車両として様々な特徴を持ち、特に断熱耐寒性能を高めるために大量のアスベストが使われています。今後の保存公開を進めるためにはアスベスト対策が不可欠と考え、「アスベスト除去」を前面に打ち出してCFを立ち上げました。

苦戦した「第一目標額600万円」達成までの45日

第一目標額は600万円に設定しました。この金額は台車につながるボディー部床下のアンダーシールを除去の費用です。しかし、この金額がなかなか集まりません。達成したのは8月18日、CF開始から既に45日が過ぎ、残り12日というタイミングでした。途中では目標額を達成できないことも覚悟しました。

600万円達成後、残り12日間で劇的な支援拡大が

第一目標額を達成すると事態は一変しました。それまでのペースからは考えられないスピードで、24日に700万円突破、28日に800万円突破、残り2日となった30日に900万円突破、そして最終日には予想もしていなかった1000万円を突破してしまいました。

第一目標額達成前後で、何が起きていたのか

第一目標額達成の前と後では事態は全く違っていました。予想はしていたものの、「アスベスト除去」を掲げることへの違和感は大きかった。鉄道ファンの間には、「環境負荷物質を抱えている」と公言することを懐疑的に考える傾向があったのかもしれない。私どものCFは前年に引続き2回目でしたが、1回目の支援者からの支援が伸び悩みました。それに代わって環境問題や自然環境に関心を持つ人々の支援が目立っていました。そして、第一目標額を達成すると、今度は一挙に鉄道ファンからの支援が急増しました。アスベスト除去に止まらず、板金塗装まで進むことが見通せたことが支援の拡大を呼んだと思います。

先駆けとしての責任を果たし、全国的拡大を期待する

無謀と思われる、苦戦も覚悟の上とはいえ、「アスベスト除去」を掲げたCFを成功できたことは、先駆けとしての責任を果たせたと考えています。私どもの取組みを前例に、全国で保存活動に取り組む皆さんが「環境負荷物質の除去」に踏み出されることを期待しています。CFがそのために武器になることを証明できたと思います。

※「アスベスト除去」の資金を集める目的のクラウドファンディングに挑戦しました。レポートを日本鉄道保存協会のHPに掲載してあります。

団体名 北海道旅客鉄道株式会社

〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 1-1
Tel : 011-700-5785 Fax : 011-700-5786
URL : <https://www.jrhokkaido.co.jp/>
Email : matuda-m@jrhokkaido.co.jp
担当者：運輸部運用課企画G 松田 道規

キハ281系車両の保存

1994年3月に営業運転を開始した「キハ281系」車両は、2022年9月に定期運行を終了し、「キハ261系」での運行に変わりました。

また8月下旬頃より、同年10月22日、23日に実施したラストランに向けて、試作車であるキハ281-901号を導入初期の塗装およびロゴマークに変更して運行していました。

このたび、このキハ281-901号を、ラストラン実施時の状態で、苗穂工場に保存することとしました。本年9月の苗穂工場一般公開時にも展示し、11月の「1日見学ツアー」においては、展示に加え客室内も見学していただく予定です。



ラストラン時のキハ281系



導入初期の塗装とロゴマーク

| | | |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | えべつ1/1会  | 〒067-0012 北海道江別市2条2丁目6 旧北陸銀行内 Tel: 090-9967-1971 Fax: なし X (旧 Twitter): @ebetetsu Email: 1bunno1kai@gmail.com 担当者: 会長 石田武史 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

えべつ1/1会は、市内の鉄道ファンを中心に結成され、江別の鉄道に関わる様々な活動に幅広く取り組みながら、地域の活性化に貢献することを目的とした団体です。江別の鉄道文化や歴史などを継承・保存していく市民の機運を高めるための活動を続け、蒸気機関車や鉄道の復元・運行をめざしています。

◆えべつ1/1会 日本鉄道保存協会入会記念フォーラム「鉄道の歴史を生かしたまちづくり」
2022年11月13日に開催されました。

地域遺産プロデューサー 米山淳一様、日本鉄道保存協会顧問 高橋一宇様、NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団理事長 吉岡宏高様（故人）の3人からご講演いただきました。



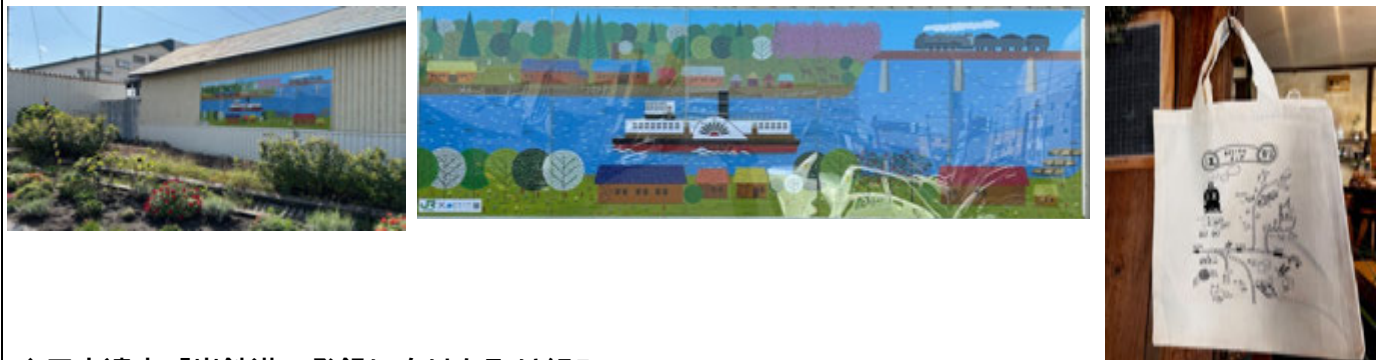
◆鉄道によるまちづくりプロジェクト

江別駅生誕140周年を契機に、駅・鉄道を中心とするエリア全体の再生と活性化を目指し「鉄道によるまちづくりプロジェクト」を開始しています。

駅、地元商店、大学、子どもと連携しながら、地域の歴史や魅力の再発見と将来の世代に向けた観光資源としての価値づけを目的とした周年イベントを開催しています。

今年は駅前広場の花壇のお手入れに合わせて、新しいイラスト看板を設置しました。

地元のイラストレータ澁谷真澄さんに、市内を流れる千歳川、かつてそこを走っていた外輪船、鉄橋と蒸気機関車を素敵なイラストにいただきました。江別の新しいフォトスポットになっています。また、市内の廃線マップをモチーフとしたトートバッグを製作して、イベント開催時に配布しました。



◆日本遺産「炭鉄港」登録に向けた取り組み

北海道遺産に認定されている「えべつのれんが」や市内に保存されている鉄道遺産が、将来にわたり保存・活用されることを願い、江別市が日本遺産「炭鉄港」に参画するための活動を進めています。市の経済部・教育部・商工会議所・観光協会と連携し、日本鉄道保存協会様からのご支援をいただきながら、ようやく炭鉄港推進協議会への正式加入の承認をいただくことができました。

団体名

一般社団法人
南部縦貫レールバス愛好会

〒 039-2512 青森県上北郡七戸町笹田 5 4-2
Tel : 080-3201-4158 Fax :
URL : <http://www.ogaemon.com>
Email :
担当者 : 星野



青森県七戸町と野辺地町の間 20.9km を結んでいた南部縦貫鉄道の車輛と旧七戸駅構内を保存する活動を行っております。

鉄道営業は平成 9 年に休止、復活することなく平成 14 年に廃止となりました。

保存車輛はレールバスキハ 101・102 の 2 両、キハ 104 ディーゼルカー 1 両 (元国鉄キハ 10)、機関車 3 両 (D451、DC251、DB11) です。機関車 D451 以外の車輛は動態保存となっています。

毎年ゴールデンウィークにはレールバスに体験乗車できるイベントを開催し、多くの方々に楽しんでいただいております。

コロナ禍によるイベント開催自粛にともない今年度は 4 年ぶりの開催となりました。

秋には夕暮れ撮影会と称して日中帯から日没後までライトアップを行い撮影会を開催しております。今年度は先月 10 月に開催し多くの鉄道ファンの方々に楽しんでいただきました。

この他に地元自治体の七戸町と連携し七戸町の子ども向けイベントを開催し、かつてこの地に南部縦貫鉄道が走っていた事を伝えるイベントを開催しています

毎週末の土日にはしちのへ観光協会のご協力のもと、七戸駅構内を公開しレールバスを見学実施しております。旧七戸駅構内では公開日にレールバスグッズを発売しております。売上は保存活動に活用させていただきます。



団体名 七百レールファンクラブ 施設名 七百鉄道記念館
https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815

七百検修庫: 〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百レールファンクラブ会長自宅: 〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2
会長: 斎藤正

事務取扱方自宅: 〒336-0926
埼玉県さいたま市緑区東浦和4-23-4-101
氏名: 野田 悟
連絡先: 090-6568-2629(開館時以外は通じません)
メール: shichihyakurfc@yahoo.co.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧: 七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧: 七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足
平成26年に旧: 七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入
平成27年5月31日 「七百鉄道記念館」として第一回 一般公開を実施
その後、令和元年度までは春・秋2回の一般公開を行って参りましたが、令和2年度～3年度は新型コロナウイルスの影響で一般公開は見送りとさせて頂きました。
令和4年9月4日: 3年振りに一般公開を開催

令和5年度は3年近くに及んだ事実上の活動休止の間に連絡が付かなくなってしまった会員も増加したことから、会組織の見直しを実施しました。
その上で、令和5年10月29日に一般公開を実施しました(原稿提出時点では予定)。又、8月28日には事前に照会を受けて、団体見学(大学鉄研旅行)を受け入れました。



10月29日の
一般公開
告知チラシ
〔予定稿〕



8月28日に
実施した
大学鉄研の
団体見学



会員による
記念館周囲
の草刈り活
動



【保存車両】
モハ3401(左)
モハ3603(右)

旧: 七百駅舎棟前の電話BOX(当館敷地内)は公衆電話設置基準の
法令等改定に伴い撤去が決定しました。



会員数も少ない状態ではありますが、今後も十和田観光電鉄線に関する歴史資料の保存と継承に引き続き活動して参りたいと考えております。

※ 個人連絡先(野田)

自宅: 048-876-0102
自宅PC: IZD01662@nifty.com
個人携帯: 090-2520-2629
個人携帯アドレス: satorunoda@docomo.ne.jp

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂鉄道レールパーク 気付）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉾山字古川20-9
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002

小坂鉄道の産業遺産を未来に！ 保存会・町・指定管理者が力を合わせてクラファン実施中。

小坂鉄道の産業遺産を未来に！
ブルートレインあけぼのをはじめとした懐んだ車両をよみがえらせて、小坂鉄道レールパークの発展を応援したい！

ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを実施して、小坂鉄道レールパークにある懐んだ車両を補修・修繕します。



クラウドファンディングを実施するに至った経緯

平成28年度に事業を開始した「小坂鉄道レールパーク」は、レールパーク運営や観光ロケット車などができる施設として多くの期待を、クラウドファンディングを受けました。なかでも平成28年度から実施している従来の「ブルートレインあけぼの」の復元、丸型機関車の復元は、皆様から多くのご支援が寄せられ、多くの期待の中、事業がすすんでいきました。

しかし、事業の進捗の中でクラウドファンディングの支援が不足し、復元事業は中絶を余儀なくされて、今年も事業の再開に向けて準備を進めています。

小坂町も、全国のクラウドファンディングの中で小坂鉄道レールパークも応援していただき、また「小坂鉄道レールパーク」もより発展したものにしたい。事業の再開・発展の促進を目的とするクラウドファンディングを実施することになり、小坂町が提供する新たな産業遺産である「小坂鉄道レールパーク」がこれからは発展していくために、多くの皆様のご支援をお願いいたします。

目標金額 **350万円**

募集期間 **10月3日(日)～12月31日(日)**

このプロジェクトを応援する(寄附する)



「小坂鉄道レールパーク」クラウドファンディング 選礼品一覧

- 憧れの24系寝台特急、夢の長客特等車体験**
～ここでやるか！本物の長客車体験～
●賞品額 **150,000円**
受け入れ人数: 1名様1人ずつの合計6名様(2人ズ～先着6名様)
受け入れ期間: 1月下旬～4月中旬の土日
クラウドファンディングが完了したら、2020年10月1日(日)まで抽選を行い、長客特等車体験の権利を当選者の方に提供いたします。抽選は、抽選委員による抽選を行います。抽選委員は、抽選委員の公募により選定いたします。抽選委員の公募は、抽選委員の公募要項を参照してください。
- 宿泊券 (A宿泊・B宿泊)**
●賞品額 **35,000円**
A宿泊 (1泊2食) **22,000円**
B宿泊 (1泊2食) **13,000円**
クラウドファンディングが完了したら、2020年10月1日(日)まで抽選を行い、宿泊券の権利を当選者の方に提供いたします。抽選は、抽選委員による抽選を行います。抽選委員は、抽選委員の公募により選定いたします。抽選委員の公募は、抽選委員の公募要項を参照してください。
- ブルートレインあけぼの「小坂行き」方向幕 (縦型方向幕)**
●賞品額 **12,000円**
クラウドファンディングが完了したら、2020年10月1日(日)まで抽選を行い、方向幕の権利を当選者の方に提供いたします。抽選は、抽選委員による抽選を行います。抽選委員は、抽選委員の公募により選定いたします。抽選委員の公募は、抽選委員の公募要項を参照してください。
- 小坂鉄道レールパークを思いっきり楽しんじゃおう！まるごとエンジョイチケット**
●賞品額 **大人ペアチケット (2名様) 10,000円**
クラウドファンディングが完了したら、2020年10月1日(日)まで抽選を行い、エンジョイチケットの権利を当選者の方に提供いたします。抽選は、抽選委員による抽選を行います。抽選委員は、抽選委員の公募により選定いたします。抽選委員の公募は、抽選委員の公募要項を参照してください。

小坂町観光課 企画総務課 TEL:0186-29-3907
小坂町観光課 観光施設工課 TEL:0186-29-3908



小坂町かぶきん

このプロジェクトを応援する(寄附する)




▲あけぼの牽引機として復帰の日を待つDD132



▲完成までもう一息、少し手を休めて記念写真



▲一足早く綺麗になったオハネフ24-12と、一日も早く美しくなりたいキハ2101。キハの修復は、保存会員の悲願です。

小坂鉄道保存会は結成10周年を迎え、新たな道を歩み始めました。その第一歩は、DD130形機関車の塗装等修繕に挑戦したことでした。体力的に、かつ技術的に苦労を重ねながらも、今年春、ついに、DD132機関車が美しくよみがえり、県内外で結構な話題になったのです。一方で、「ブルートレインあけぼの」の修繕予算の是非を巡って町議会が紛糾し、町が自ら資金の一部を寄附によって集めるという条件つきで可決。小坂町と指定管理者、そして保存会が、一致団結して、クラウドファンディングに取り組むこととなったわけです。

修繕を待っているのは、24系だけではありません。キハも綺麗になる日を待ちわびています。ぜひ、目標額以上の寄附が集まるよう、皆様からのご支援も、よろしくお願い申し上げます。

くりはら田園鉄道公園概要・・・

2007 年 4 月 1 日に廃線となっくりはら田園鉄道。その資料や車庫、若柳駅・車両などを含む一
 体を保存・活用する施設として、栗原市営で 2017 年に開館いたしました。

当施設は資料館を含む静態保存車両・車庫の展示を行うミュージアムゾーン、
 若柳駅を拠点に片道 900m の保存線路を有し、乗車会や運転体験を行うアトラクションゾーン、
 動態保存車両が見える線路脇に作られた芝生広場の 3 拠点からなる複合施設となっております。

※2021 年から NPO 法人 Azuma-re が指定管理者として運営を行なっています。

(右写真:くりでんミュージアム空撮写真。写真左側線路が伸びている建物が、使用されていた車庫)



R5 年度 保存・修繕活動

TOPIC 1・・・動態保存車両の枕木交換着手 (2023.9.25-29)

2017 年のミュージアムオープン時に大規模な保線作業を行なってから丸 5 年経過し、劣化も進んできて
 います。特に令和 3 年度以降飛躍的に動態保存車両の稼働回数が増え、より一層安全管理の重要性を意識
 するようになりました。今年度 9 月には栗原市主導で業者に委託し、枕木 100 本の交換を実施しました。
 保線技術に関してはくりでん保存愛好会の指導もいただきながら、駅業務のスタッフが動態保存区間の枕
 木管理について引き継ぎを行なっています。



TOPIC 2・・・KD951、953 をクラウドファンディングにて塗装完了

2022 年 (令和 4 年) 7 月 1 日から 10 月 31 日までの 4 か月間、クラウドファンディングによる寄附
 募集を行ったところ、全国各地からくりでんを応援する声や、くりでんの現役当時の姿を懐かしむ声など、
 心温まるメッセージとともにたくさんのご寄附いただきました。(寄付総額 2,006,095 円)
 多くの皆様のご支援に深く感謝申し上げます。(塗装費用は 約 3,000,000 円)



TOPIC 3・・・動態保存区間外の廃線路からのレール部品調達

くりはら田園鉄道の廃線路は、公園内の動態保存区間以外も全線にわたって残されています。今回、動態
 保存区間 (公園内) のトンゲルレールが摩耗しているため、沢辺駅跡から取り外し、搬入しました。その他、
 市民からくりでん廃線時に購入した 30kg~50kg レール (5t 相当) を寄贈いただくなどしました。

R5 年度 施設運営・活動報告

令和 5 年度も例年通り、ミュージアムイベントの開催および乗車会 / 運転体験開催を行なっております。

TOPIC 1・・・鉄道コレクション ミュージアム限定販売第 2 弾販売開始!

8 月 11 日 (金) より販売を開始しました。前作同様 2000 個限定となっており、順調に販売が進んで
 います。セット内容は M153+ワフ 74 (有蓋貨車)+ト 103 (無蓋貨車) で、3300 円です。



TOPIC 2・・・令和 6 年度以降の指定管理者審査が行われます。

令和 3 年度より、栗原市直営から指定管理運営に移行し今年で 3 年目となり、委託期間の満期となりま
 した。次年度以降の指定管理者については一般公募による再審査となり、当 NPO も継続受注を目指し
 て参加を表明しました。審査結果は 12 月ごろの議会を持って決定されます。

TOPIC 3・・・M153 のパンタグラフ修繕が、株式会社ワンマイル様のご協力を経て完了しました。

若柳駅にて保存している M153 の破損していたパンタグラフを、株式会社ワンマイル様に依頼し修繕
 いただきました。この度のご協力心より感謝申し上げます。



TOPIC 4・・・岩手宮城内陸地震から 15 年が経過しました。

2008 年 6 月 14 日に発生した岩手宮城内陸地震から今年で 15 年が経過しました。くりはら田園鉄
 道の保存に尽力いただいた岸由一郎氏へ献花を今年も実施しましたことをご報告いたします。



令和 4 年度の入館者等結果報告

来場者数・・・13,739 名 (令和 3 年度比 3187 名増)

乗車会参加者・・・5,859 名 (令和 3 年度比 879 名増)

運転体験参加者・・・53 名 (令和 3 年度より実施回数を倍に増やした)

令和 4 年度は、開館年度に次ぐ好成績を残すことができました。漫画作品とのコラボなども来場者増につながる要因となった。指定管理制度的審査をクリアして、令和 6 年度以降も引き続き携わりたい。

| | | |
|-----|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | みちのく鉄道応援団 (東北鉄道資料保存協議会) | 〒 980-0021 仙台市青葉区中央 4-10-3 JMF ビル仙台 01 八階 Tel : 022-397-7240 URL : https://michinoku-railroad.cocolog-nifty.com/ Email : t-kusaka@livet.jregroup.ne.jp 担当者 : JR 東日本東北総合サービス株式会社 総務部 日下敏彦 橋場文郎 |
|-----|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

令和 5 年度活動報告

令和 5 年 10 月 6 日現在
みちのく鉄道応援団
代表幹事 佐藤 茂

この一年はコロナ禍の余波を受けつつも本来の活動水準に戻った一年間であった。

幹事会は月一回の頻度で行っていたが、各回インターネットを用いて電子紙上開催とした。この方式はコロナ禍から尾を引いているものだが、一方で鉄道談義と称する懇親会を部分的に復活させ、諸行事も着手できる所から再開している。

総会は三年ぶりに対面式に復した。当令和 5 年 8 月 26 日(土)、猛暑の続いていた時期であったが、仙台市戦災復興記念館にて開催し、活動報告等を行った。また、当会と密接な関係のある東北福祉大学鉄道交流ステーションの存続問題に就いても同大からの中間報告を紹介した。加えて、総会終了後は関連団体とも交流を兼ねた懇親会を開き、久しぶりの懇親となった。

当会の重要事項の一つ、交流電化試験関連の諸資料の保存に就いては、同資料を収集し体系的に保存・展示・出版を行っていた上記鉄道交流ステーションが当年 9 月に閉鎖された。資料の継承が問題となっている。

地方交通線関連活動では、当地の阿武隈急行線の応援乗車会を定期的に行き、既に 7 回を重ねている。同じく利用者数低迷の陸羽東線向けに「目指せ 1000 人！陸羽東線乗り合わせ企画」を実施した。

旧仙台市電関連では、仙台市秋保地区に保存されている旧仙台市電 119 号の塗装補修を行った。この 119 号は、仙台市電廃止後長崎電気軌道に譲渡され活躍していたものを仙台に里帰りさせたものである。

他機関との関係では、昨年は鉄道開業 150 周年、仙台駅では令和 4 年 10 月 8 日は鉄道の日に関連行事が催され、その一環として 1/80 鉄道模型の走行展示を行った(鉄道模型趣味 2022 年 12 月号御参照)。また、当年 4 月から 7 月までは仙台市地底の森ミュージアムで開かれた企画展『長町に操車場があったころ』に協力し、写真等の資料提供、及び 1/80 鉄道模型の静止展示と走行展示とを行った。尚、模型の走行展示は 4 月 29・30 日、5 月 27・28 日、6 月 24・25 日の各土日計 6 日間実施した。上記各走行展示は宮城野鉄道研究会との共同で実施した。

また、C601 保存会も通常の活動に戻りつつあり、掃除会が昨年 11 月 19 日(土)に好天で実施され、当会からも数名参加し、機関車の現地説明は、仙台市の要請に対応し、中心部で開かれる行事と連動して行った。



当会からの参加としては他に仙山線駅間ウォーキングが行われている。各駅間を複数回に分けて歩くという企画である。

そして、会員向けに令和 2 年 7 月から週一回鉄道関連動画の紹介を続行している。過去の記録性の高い動画を観ることで時間旅行も行うと言う企てである。概ね、地元、国内、世界と順に巡っている。既に約 150 本は行なった。メールアドレス登録済みで且つメール連絡を可とされている会員に向けて行っている。

コロナ一過との期待感の下で諸行事の再開を図った。

(以上)

写真 鉄道 150 周年記念仙台駅行事での走行展示
-16 番及び HO 令和 4 年 10 月 8 日

| | | |
|-----|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 真岡線 S L 運行協議会 | 〒 321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412 番地 Tel : 0285-82-9151 Fax : 0285-82-9152 URL : https://www.moka-railway.co.jp/ Email : furusatoshinkou@hagakouiki.jp 担当者：間宵 嘉明 |
|-----|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



▲子供達と N ゲージ体験

「S L もおか」運行概要

- 【運行日】 毎週土曜日・日曜日（年末年始を除く）
- 【運行区間】 真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
- 【運行時間】 下り 下館駅10:35発～茂木駅12:06着
上り 茂木駅14:26発～下館駅15:56着
- 【運行車両】 S L C12形66号
P C 50系 オハ2両、オハフ1両
D L DE10 1535 1両

【S L もおか 近況報告】

◆真岡鐵道「鐵道模型&写真展示会」を開催しました。

真岡鐵道「S L もおか」を応援するボランティア団体「もおかS L 倶楽部」は令和4年10月23日（日）に真岡線への誘客を図るため、「鐵道模型&写真展示会」を開催しました。会員各自が所有するNゲージやプラレールを持ち寄り、通りかかった子どもたちへ模型操作を教えたり、会員が自ら撮影した真岡線の写真を展示し、撮影のポイントなどを説明しました。会場はJ R 水戸線のターミナル「小山駅」の駅ビル「ロブレ」で開催し、栃木県南地域と茨城県西地域の方を中心としたおよそ400人の親子連れで賑わいました。



▲倶楽部員所有のジオラマ展示



▲プラレール広場



▲写真の展示

◆イベント列車「S L いちかい」を運行しました。

真岡鐵道は、市貝町のPRと芝ざくら公園で行われる「芝ざくらまつり」の応援企画として、令和5年3月18日と19日の2日間、S L 列車を「S L いちかい」と題し運行しました。

「S L いちかい」では「サシバ」をイメージしたヘッドマークを装着し運行しました。

「サシバ」とは、タカの仲間の猛禽類で、春から夏にかけて日本で子育てを行い、冬は東南アジアに渡り越冬します。

近年、栃木縣市貝町が世界有数のサシバの繁殖地と判明しました。サシバは絶滅危惧種に指定されており、市貝町はその保護にとっても力を入れています。

当日のS L 車内では、乗客全員に市貝町で人気の和菓子屋「高德」のどら焼きを配布しました。



▲「サシバ」ヘッドマーク

団体名

一般社団法人

あしおトロッコ館

〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
(古河足尾歴史館内とわたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物ホーム周辺)
URL : <https://www.furukawakk.co.jp/ashio>
E-mail : ashiotoro@gmail.com
担当者：総務担当 岡本憲之



▲鉄道考古学的遺産である旧日本陸軍鉄道連隊の境界杭。御影石が使われています。一番左の1本は下部が欠けているものです。



▲足尾駅で保存されている元古河鉱業の濃硫酸専用タンク車タキ 29312



▲足尾駅で保存されている車両達のうち、キハ 35-70 はツアーなど含めて定期的な車内公開も再開しました。



▲いちばん左があしおトロッコ館の主役である足尾銅山のガソリンカー(動態運転)軌間 610mm と、中央は井笠鐵道ドイツ・コッペル社製7号蒸気機関車(静態保存機)軌間 762mm。一番右が、大分鉱業からやってきた日立製作所製 8t 電気機関車と古河鉱業足尾製作所小山工場製のグランビー鉱車 2 両(静態保存)軌間 762mm

少し不思議な鉄道の博物館を目指し活動しております、**一般社団法人あしおトロッコ館**は、**古河足尾歴史館の野外と2階室内展示場**と**わたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物ホーム構内**の2か所で活動しています。いずれも古河機械金属・わたらせ渓谷鐵道・日光市・足尾町民各位の深いご理解と協力のもと、保存活動を続けています。

【一般社団法人 あしおトロッコ館の活動状況】

その1 古河足尾歴史館 野外

足尾ガソリン軌道歴史館線とトロッコ展示場

●毎月第一土・日のガソリンカー運行のほか KATO のディーゼル機関車トロッコ列車も運行

その2 古河足尾歴史館 2階

あしおトロッコ館室内展示場

●古河足尾歴史館開館日は公開。

その3 わたらせ渓谷鐵道 足尾駅

動態保存車両(軌間 1067mm)

●わたらせ渓谷鐵道や東武トップツアーなどの団体見学のほかに、一般公開も今年から再開しました。

最新情報

鐵道連隊の境界杭を寄贈頂きました

新京成電鉄様から同社保管のみごとな御影石で造られた旧日本陸軍「鐵道連隊境界杭」を5本、あしおトロッコ館へと寄贈頂きました。これからどう展示するか検討しています。標準軌と軌間 600mm の演習線沿いに大正初期に造られたもので、後にこの線路跡が新京成電鉄となっています。

大分鉱業より電気機関車等寄贈頂きました

九州は大分県の津久見にある優良石灰石鉱山である大分鉱業。そこで鉱石を運んでいた旧上部運搬線で活躍していた軌間 762mm の日立製作所製 8 t 電気機関車と古河鉱業足尾製作所小山工場製のグランビー鉱車 2 両を寄贈頂きました。この保存活動には古河機械金属様の全面支援によるもので、野外展示場にて静態保存するはこびとなりました。

団体名

鹿島鉄道保存会

<鹿島鉄道記念館>

〒113-0033
東京都文京区本郷 2-40-14 山崎ビル 3 階 (株)バレア内
TEL 03-5802-2755 FAX 03-3818-2700
URL <https://www.facebook.com/kashitetsu>
代表者: 加藤

鹿島鉄道保存会は、2007年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～鉾田間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志で構成され、「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【保存車両】

キハ714(1953年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)
KR-501(1989年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)
キハ431(1957年東急車輛 元加越能鉄道キハ125) ※2023年8月再塗装実施

【保存建物】

玉里駅上りホーム待合室
ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を收藏

【活動報告】

2022年3月に廃線15周年を迎え、また同年9月に鹿島鉄道の前身である鹿島参宮鉄道(現関東鉄道)が創立100周年となることから、同年8月に水戸市内で鉾田駅保存会との共催で「鹿島鉄道回顧写真展・資料展」を開催したほか、同年11月には関東観光主催による関東鉄道100周年記念バスツアー「鹿島鉄道保存車輛見学と廃線巡りの旅」が催行され、鹿島鉄道記念館を特別公開しました。このツアーは本会・鉾田駅保存会・小川南病院・鹿島鉄道の連携により保存車6両の見学と坂戸駅周辺の廃線ウォーク、かしてつBRT乗車ができるコースで、当会スタッフが行程をサポートしました。2023年3月に第2回が催行され、今秋も催行に向けて調整中です。2023年5月には、鉄道写真愛好家による貸切夜間撮影会を実施しました。また、車体の褪色や腐食が進んでいたキハ431は、2023年8月に2度目の修繕再塗装を施工しました。

関東鉄道 100 周年記念ツアーでは旧坂戸駅に当会所有の駅名板を特別展示 (2022 年 11 月)



貸切夜間撮影会 (2023 年 5 月)



修繕再塗装されたキハ431



団体名

鉾田駅保存会

URL : <https://hokotaeki.jp/>

Email : hokota-station@rail.nifty.jp

〒311-1528 茨城県鉾田市当間 220 ほっとパーク鉾田内

キハ601とKR-505の保存活動をしています



当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線（2011-01-16）

2007年3月末で廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車(キハ601・KR-505)の保存活動を行っています。

キハ601は昭和11(1936)年川崎車輛製のキハ42032(後のキハ07)で、鹿島鉄道廃線時には全国で最古の営業用気動車でした。2024年に米寿を迎えます。

鹿島参宮鉄道の開業は大正13(1924)年であり、開業100周年も2024年となるため、祝賀イベントの実施を検討しています。(鉾田までの全線開業は昭和4(1929)年)

KR-505は平成4(1992)年新潟鉄工製の鹿島鉄道独自の気動車で製造後31年となりました。

当会は、2両が展示されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開と、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR-505は廃線後の2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。

当初、鉾田駅保存会は賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動をしていました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、2両を保存することになり、当会は2両の気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。2010年度より、現在地での車両公開イベントを開始しています。

2011年の東日本大震災で路盤の液状化により道床の破壊と車両の傾斜・床下機器損傷等の被害を受けました。車輛を一時的に移動して道床の復旧が行われ、2011年12月に元の道床に復帰し、2012年3月より当会は公開イベントを再開しました。

以後4~11月の原則第4日曜日の定期車両公開イベントを継続実施してきました。並行して天候の比較的稳定した12~3月に全塗装等の大規模補修作業を行い、その他の保守作業は随時実施してきました。

2020・2021年度は新型コロナウイルスの感染防止対応で、状況を熟慮しつつ条件の整った場合は公開を実施しました。

このため、展示線・車内においても、閉塞スペースの解消、パーティションや注意看板の導入、アルコール消毒液の設置、車両公開時の換気の徹底など、基本的な感染症防止対策を行いました。

2022年度は定期公開・広報活動を実施するとともに、鹿島参宮鉄道会社設立100周年・廃線15周年にあたるため水戸市において『鹿島鉄道廃線15年展』を鹿島鉄道保存会さんと共催で実施しました。

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

- (1) 鹿島鉄道関連資料・書籍の展示
- (2) 保存活動内容の展示・広報
- (3) KR-505車内でのプラレール遊び
- (4) キハ601車内での鉄道模型展示・運転(鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等)
- (5) 5インチ乗用鉄道の体験乗車(16m×12mオーバルほか)

また、鉾田市や商工会主催の鉾田うまかつフェスタ・ほこたマラソン・ほこたいっぴんマルシェや、石岡市商工祭などの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。近隣施設での広報活動も実施しています。

今年度も4月から車両公開を開始(10時~15時)しました。7~8月の暑気避けの夏時間(15時~19時)での公開では、キハ601の前照灯・室内灯の点灯と警笛の吹鳴を行いました。

今年度の今後の公開は11/26[日]です。

廃線から16年が経過し、毎年補修・塗装を行っているとはいえ、車両の劣化も進んでいます。

錆びを落とし塗装をするだけでは凌げない箇所も多々あり、技術力(防錆・溶接等)の向上と補修用機材(溶接機等)の導入、人員の強化が変わらぬ課題です。



前照灯・室内灯を点灯したキハ601

団体名

ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)

〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
広沢商事株式会社 観光部 内
Tel : 0296-45-5601 Fax : 0296-45-5602
URL : http://www.shimodate.jp/rail_top.html
Email : honten@hirosawa-shoji.co.jp
担当者：野口・石川

乗り物がメインのテーマパーク、「ユメノバ」開園準備中です。



昨年5月にレールパークを含むテーマパークの名称が「ユメノバ」に決まり、現在開園に向けた準備を進めています。

「ユメノバ」では実際に使用された車両をはじめとした鉄道関連資料や、戦後初の国産旅客機YS-11と復元した零式艦上戦闘機(零戦)が目玉の航空関連資料、各国のクラシックカー、クラシックオートバイ、日本の宇宙開発関連資料など、数々の乗り物に関する資料を展示いたします。

また、ご家族でお楽しみいただける、たくさんのおもちゃを集めた「おもちゃ王国あそぼっ！ランド」や新幹線の座席を利用したミニシアター、南国気分が味わえる熱帯植物園など、計22の施設が設置されています。

引退した北斗星車両を宿泊施設に！

「ユメノバ」内に保存されている北斗星車両を、宿泊施設「北斗星ユメノバ」として使用するための作業を進めています。

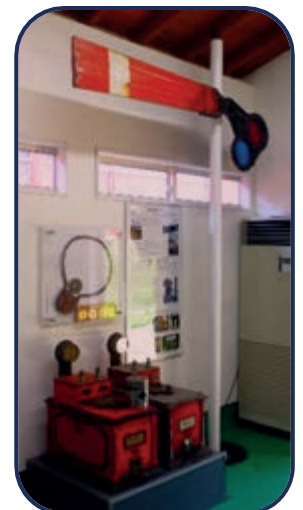
下の写真は、北斗星車両オハ25のロビーカーおよびオロハネ24内のA個室ロイヤルの様子です。運行時の設備を可能な限り残し、ロビーカーでの歓談や、食堂車グランシャリオでの食事といった在りし日の寝台特急での旅が体験できる宿泊施設を目指しています。北斗星に乗ったことのある方はもちろん、初めて寝台特急に乗るお子さまをはじめとした幅広い世代の方々へ、寝台特急ならではの魅力をお伝えしていきます。



鉄道資料館では貴重な資料の数々を展示予定です。

「ユメノバ」内の鉄道資料館で展示する資料の一部をご紹介します。右の写真はそれぞれ実際に使用された現美新幹線の11号車座席、16号車連結カバーと、腕木信号機とタブレット閉塞機になります。その他、資料館では茨城県内を営業区域とする各鉄道会社様より展示協力を頂いた資料などを公開いたします。

また、併設される鉄道きっぷ館では、皇室関連記念乗車券や、東北新幹線や山形新幹線をはじめとする開業記念切符、戦時中の日本の鉄道網図のレプリカなど、多数のコレクションを展示いたします。



静態保存車両一覧(計12両)

北斗星車両

EF81 138
オロハネ 24 551
スシ 24 505
オハ 25 503
オハネフ 25 12

マリンライナーはまなす

7001
7002

関東鉄道

キハ 101
(旧 JR 九州キハ 30-55)
キハ 102
(旧 JR 九州キハ 30-96)

蒸気機関車

D51 1116

新幹線車両

E224 127

つくばエクスプレス

電気軌道内作業車

「ザ・ヒロサワ・シティ」は、「自然・健康・文化」をテーマとしたテーマパークです。茨城県が誇る名峰筑波山を望む総面積100万㎡の敷地の中に、廣澤美術館や専門学校、18ホールの本格的なコースをもつ下館ゴルフ倶楽部、オフロードコース、農園、ドームハウス、キャンプ場、ドッグランなど様々な施設を展開しています。

| | | |
|-----|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら | 〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel : 027-380-4163 FAX : 027-380-4111 URL : https://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email : bunkamura@usuitouge.com 担当者：事務局長 小崎 正人 |
|-----|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンした鉄道のテーマパークです。今年で開園24年目を迎えました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早26年が経過し、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月のお盆過ぎまで、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の運転体験も3,000人が受講されています。2022年度は58名の受講者（内、女性3名）があり、のべ3,217回の体験を楽しまれました。また、通算500回以上運転された方が9名おり、ついに1,000回達成者が現れました。2023年度も引き続き多くのお客様が運転体験を楽しまれています。

新型コロナウイルス感染症の影響で入園者数が減少しており、20時まで営業を延長する「ナイトパーク」や屋外展示車両広場で1泊のキャンプイベントを開催し、密になる状況をできるだけ避けたイベントなどを行い集客に努めています。



運転体験で使用している EF63 形電気機関車



トロッコ列車シェルパくん



ナイトパーク



キャンプイベント

| | | |
|-----|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 一般社団法人電鉄文化保存会 | 〒 152-0023 Tel : 090-6186-6135 Fax : 03-5701-2753 URL : snowy-saito-7755.zombie.jp Email : interurbanmuseum.tokyo@gmail.com 担当者：岩崎 直彦 |
|-----|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

一般社団法人電鉄文化保存会は、車両技術史的に貴重な東急電鉄の鋼製車 3 両を所有し、その保存活動を行っています。

1. 活動報告

2023 年

今年度前半は、デハ 5000 形のクハについて集中的に修復作業を進めました。

5 月 17 日

大学鉄道サークルの活動の一環として見学会を受け入れ、車内公開しました。

9 月 6 日

第 1 回理事会を開催しました。



2. 2023 年度上期の作業報告

1) デハ 5000 系の塗装修復作業を継続して行っています。
クハの前面、および側面リブより上の下地処理まで進んでいます。

2) 各部の修繕、整備を進めています。



・デハ側正面窓下の張り替え修理を行いました。

・ドアを外して、調整と当てゴムの整備を行いました。



・クハ側のベンチレーターを取り外して屋根修理を行い、防水・断熱塗料での塗装を行いました。

まだまだ修復すべき箇所は山ほどあり、順次進めていく予定ですが、主な予定箇所は以下の通りです。

- ・劣化したシートの張り替え
- ・室内の再塗装、整備
- ・デハ側窓の修繕
- ・幌の修理
- ・仕上げ塗装

3. 今年度の今後の事業予定

- ・クハに続き、デハ 5000 の修復作業を進めます。
- ・現在作業を休止しているデハ 3499 号の修復再開をめざします。
- ・電鉄文化保存会の支援団体を設立し、その会員募集を企画します。

| | | |
|-----|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 日本工業大学 工業技術博物館 | 〒 345-8501 TEL : 0480-34-4111 FAX : 0480-33-7570 URL : http:// museum.nit. ac. jp Email : museum@nit. ac. jp 担当者：五月女 浩樹 |
|-----|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

現在わが国の工業技術が世界最高レベルなのは先人達が懸命な努力をし続けてきた賜物であり、その経緯と成果に触れつつ技術発展を図る『温故知新』が工業技術の教育・研究開発には不可欠である。

そこで、学園創立80周年記念事業の一つとして1987年度に開設された当博物館では、国内外の先人達の成果である機械等を調査・収集・保存・展示することで、技術史研究の場を提供するとともに工業技術の教育・研究・啓蒙に貢献することを目的として、下記の諸活動を行っている。

- 1) わが国の経済発展に貢献した工作機械を主体に、機械機器類を調査・収集し、整理して保存・展示を行う。
- 2) 常設展示とは別に、年1回、中核である工作機械や身近な工業製品の技術をテーマとした特別展を開催する。
- 3) 国内外の技術の変遷を理解する上で必要な書籍・文献・関連資料(図面等)の収集を行い、整理して保存する。
- 4) 技術の変遷に関する記事、当博物館の活動、収蔵品の紹介などを掲載する『工業技術博物館ニュース』を発行する。

開設以来、収蔵品の数が年々増大するとともに質も向上してきており、現在、常設展示品だけで機械機器類大小合わせて500点以上に達している。特に約270台もの工作機械を保存展示し、そのうち約70%が動態保存であること、工場形式の展示も数点あること、機種別・年代順に展示し変遷が理解できることなどが、国内外の他の類似の博物館には無い大きな特長である。

生産機械以外では、国家プロジェクトで開発され世界最高効率を実証した大型ガスタービン、1891年に英国で製造され、長年わが国で活躍した**蒸気機関車2100形-2109号**、1919年に製造され、100年間にわたり箱根登山鉄道で活躍した**登山電車モハ1形103号**、2007年の学園創立100周年記念事業の一つとして調査・復元した**日野式2号飛行機(レプリカ)**なども展示している。蒸気機関車については、動態保存して、キャンパス内に敷設した軌道上で時折有火運転し、鉄道ファンだけでなく、多くの皆様楽しんで頂いている。



SL2109号とそのミニ写真展開催風景



新開設のホームページ

2109号蒸気機関車について

英国 Dübs 社製の蒸気機関車 2109号は、2023年に132歳を迎えた。機関車の運転については、オープンキャンパスを中心に実施している。運転日時等の詳細は、工業技術博物館ホームページにて随時公開をしている。なお、2022年3月24日より弊館 SL 館内において開催した「くろがねの勇者 2109号」と題したミニ写真・資料展は好評につき開催を延長して展示している。

工業技術博物館ホームページ開設

昨年度にオリジナルのホームページを開設した。

URL : [http:// museum.nit. ac. jp](http://museum.nit.ac.jp)

ホームページでは、「工作機械」「復元町工場」などカテゴリごとに多くの写真で展示品を紹介している。また、初心者にもわかりやすく工作機械について学ぶことができ、「NEWS & EVENTS」のコーナーで蒸気機関車 2109号や5インチゲージのミニトレインの運転日時についても公開されている。

| | | |
|-----|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 秩父鉄道株式会社 | 〒 360-0033 埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地 Tel : 048-523-3337 Fax : 048-526-0551 URL : http://www.chichibu-railway.co.jp Email : syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者：木村 壮史 |
|-----|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

2023年8月18日(金) SLパレオエクスプレス 祝 3000回運行



秩父鉄道 SLパレオエクスプレスは、1988年3月15日に運行開始し、2023年8月18日に運行3000回を迎えることができました。ここまで続けてこれたことは、多くのお客様をはじめ、関係者の方々のご支援、ご協力によるものであり、大変感謝申し上げます。

C58363（シゴハチサンロクサン）はかつて東北地方などの旧国鉄（現在のJR）で活躍したSLです。昭和47年に現役引退後は、吹上町立吹上小学校(現、鴻巣市立吹上小学校)の校庭で小学生と一緒にのんびりと余生を送っていましたが、さいたま博覧会（1988年3月19日から5月29日まで熊谷市で開催）にあわせて「SL運行を！」の声があがり、その大役にC58363が抜擢され、1987年に車籍を復活。1988年に秩父路のSLパレオエクスプレスとして誕生しました。

今後も、秩父地方の大自然の中を四季折々の景色と共に、SLの醍醐味を多くのお客様に楽しんで頂くため安全運行を続けてまいりますので、是非、皆様のご乗車お待ち申し上げます。

団体名

東日本旅客鉄道株式会社
公益財団法人東日本鉄道文化財団

〒330-0852

埼玉県さいたま市大宮区大成町 3 丁目 47 番

Tel : 048-651-0088 Fax : 048-651-0570

URL : <http://www.railway-museum.jp/>

EF58 形 61 号電気機関車の常設展示を開始

○2022 年 10 月 30 日(日)より、EF58 形 61 号電気機関車を常設展示しました。

○本機関車は 1953(昭和 28)年 7 月にお召列車専用機として製造され、首都圏の直流電化区間を中心に 2008(平成 20)年まで活躍してきました。

○当館の展示車両は屋内外合わせて 42 両となりました。



展示中の EF58 形 61 号電気機関車 (※お召し仕様時)

～EF58 形 61 号電気機関車について～

■製造年 1953(昭和 28)年

■製造所 日立製作所 水戸工場

■全 長 19.9m

■特 徴

○1953(昭和 28)年、EF58 形 60 号機とともに初めからお召列車専用機として指定した上で車両メーカーに発注、新製された。

○車体正面だけでなく側面まで取り付けられたステンレス製の飾り帯や国旗掲揚装置、足回り各部の磨き出しなどの専用装備を当初から備えていた。

○1953(昭和 28)年 10 月に東京～名古屋間でお召列車をけん引して以来、2001(平成 13)年までの間、90 回以上お召列車の先頭に立ち、そのほかにも臨時列車やイベント列車を多くけん引し、日本の電気機関車を代表する存在となった。

企画展「大機関車展～日本の鉄道を引っばった勇者たち～」の開催

○1872(明治 5)年 10 月 14 日に新橋～横浜間に日本初の鉄道が開業して以来、日本の鉄道は長きにわたり、機関車が客車や貨車をけん引する輸送形態が主流でした。

○本展では、昨年 10 月より当館で常設展示を開始した EF58 形 61 号電気機関車をはじめ、国鉄の電気機関車やディーゼル機関車を中心にその歴史と活躍を振り返ります。

○電気機関車やディーゼル機関車に関する貴重な写真や、初公開となる国鉄時代の車両計画に関する資料などを紹介する見どころ満載の企画展です。

1 会 期

2023 年 10 月 14 日(土)～2024 年 1 月 29 日(月)

2 会 場

鉄道博物館 本館 2 F スペシャルギャラリー 1

3 入 場 料

無料 ※入館料のみでご覧いただけます。

4 主 催

鉄道博物館

5 後 援

さいたま市、東日本旅客鉄道株式会社



鉄道創業期に輸入された 1 号機関車



EF65 形の引く寝台特急「富士」1978 年

| | | |
|-----|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 一般財団法人東武博物館 | 〒131-0032 東京都墨田区東向島 4-28-16 Tel : 03-3614-8811 Fax : 03-3614-8814 URL : https://www.tobu.co.jp/museum Email : kanri@tobuhaku.jp 担当者：伊藤 美千夫 |
|-----|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

東武鉄道 8000 型 8111 編成が復活！

コロナ禍の影響もあり、全検切れで長らく走行できない状態にあった東武博物館所有の動態保存車、東武鉄道 8000 型 8111 編成は、このほど若干のリニューアルと併せて全般検査が竣工し、東武アーバンパークライン（野田線）で、営業線における運用に就くこととなりました。

8000 型は 1963 年（昭和 38 年）11 月の就役でしたので、この 11 月で丁度 60 年の還暦を迎えます。8111 編成は 8000 型デビューと同じ 1963 年の竣工であるとともに、登場時の姿を今にとどめる貴重な存在です。今回は還暦ということもあり、当時と同じロイヤルベージュとインターナショナルオレンジのツートンカラーに再塗装して一般のお客様を運ぶこととなります。「私鉄の 103 系」と呼ばれ、最大時 712 両の陣容を誇った 8000 型の雄姿を是非見に来て下さい。



SL 大樹運行 6 周年

2017 年 8 月 17 日より運行した SL 大樹は、6 周年を迎えました。日本鉄道保存協会および関係者の方々のこの間のご協力に感謝いたします。SL3 両は、細かなトラブルはありながらも、関係者の努力により無事に連日運行されており、多くのお客様に喜ばれています。

また、6 周年を記念して 8 月 9 日から 10 月 9 日までの 2 カ月間、C11-207 号機が赤ナンバープレートをつけて走りました。



| | | |
|-----|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 公益財団法人 日本ナショナルトラスト | 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階 TEL : 03 (6380) 8511 FAX : 03 (3237) 1190 |
|-----|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|

「トラストトレイン」の活動について

運行日のボランティア活動では、車両の清掃や運行補助のほか、活動を周知するためのパンフレット配布などを行っています。他にボランティア間でミーティングも行い、活動を充実させるためには何をすればよいか、ボランティアや協力者を増やすにはどうすればよいかなど知恵を出し合い、行動に移しています。

また、運行日のうち一回を「親子ボランティア」として実施しています。親子ボランティアは、次世代を担う子供たちに歴史的車両を守っていく楽しさや喜びを伝えるため、歴史的車両と触れ合う機会、保存・活用に関わっているボランティアの方々や大井川鐵道の鉄道マンの方々と交流する機会となっています。

市民参加により動態保存されているこの貴重なトラストトレインを末永く維持管理するために、今後も皆様の温かいご支援をお願いいたします。

2023 年「トラストトレイン」運行日ボランティアについて

2023 年 4 月 22 日 (5 名)、9 月 16 日 (12 名)、10 月 14 日、12 月 2 日、2024 年 1 月 27 日

*いずれも土曜日

*10 月 14 日は「親子ボランティア」を開催予定

* () 内は参加者数

〔区間〕大井川鐵道 新金谷駅 — 家山駅または川根温泉笹間渡駅

〔保有車両〕

C12 形 164 号蒸気機関車 (休車中)、スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車



C12 形 164 号蒸気機関車 (休車中)



好評の親子ボランティア (2019 年)



トラストトレインのウェブサイトは、左の二次元コードからご覧いただけます。

2023 年 10 月 4 日時点

| | | |
|-----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 公益財団法人交通協力会 | 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-5 新国際ビル 903 号 Tel : 03 6269 9808 Fax : 03 6269 9809 URL : https://www.transport.or.jp Email : suga@transport.or.jp 担当者：菅建彦 |
|-----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

沿革

当会の源流は、大戦中の 1943（昭和 18）年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。その頃、戦時経済のもとで紙が統制物資となり、いわゆる業界紙誌の発行が困難に陥っていました。陸運協力会は、これまで民間業者が発行していた鉄道関係の業界紙を統合して同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行を開始し、各種雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949（昭和 24）年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらはいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987（昭和 62）年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011（平成 23）年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類をデジタル版として復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ <https://transport.or.jp> の電子図書館にアクセスし、ID・パスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。

『鉄道百五十年史』編纂事業

今年 10 月 14 日、わが国鉄道の創業 150 年を迎えます。『日本鐵道史』、『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂に備えて、当会は 2012 年以来調査・研究活動を進めていました。

鉄道省も国有鉄道も存在しない現在、編纂と刊行の主体をどうするか、資料の収集と保存をどうするか等の難しい問題もありましたが、2015 年 11 月から当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させ、審議を重ねました。その結果、総事業費 3 億余円をかけて、国鉄・JR だけでなく民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史（全 5 巻および資料編 1 巻）を編纂し、2022 年度に刊行することが決まり、2017 年 4 月、東京大学名誉教授原朗先生を委員長とする『鉄道百五十年史』編集委員会が発足しました。当会は編集委員会の事務局を務め、完成した『鉄道百五十年史』を当会の名で出版します。3 億円をこえる事業費は、JR 各社のほか民鉄など鉄道事業者、鉄道と関係の深い諸団体や企業などからの寄付で賄い、文字通りわが国鉄道関係者の総力を結集した事業となっています。

編集委員会は 2 年間にわたる議論を経て全巻の詳細な記述内容を確定し、各巻 2 名の編集委員（経営史、技術史の専門家各 1 名）計 10 名のほか、約 60 名の分担執筆者が加わって、執筆を始めました。巻別の内容は、第 1 巻「創業から国有鉄道の誕生まで」、第 2 巻「帝国の鉄道の形成・発展・崩壊」、第 3 巻「復興期から高度経済成長期の鉄道」、第 4 巻「交通市場の変容と国鉄の経営危機」、第 5 巻「JR と民鉄の時代」となっており、1949 年の日本国有鉄道発足から 1987 年の国鉄改革までの約 40 年間に 2 巻を充て、この時代に特に重点を置いた構成になっています。『日本国有鉄道百年史』がいわば旧国鉄の「社史」であったのに対し、『鉄道百五十年史』は旧国鉄・JR のほか民営、公営の鉄道を含む「産業史」を目指すものです。また、数多く刊行されている私鉄各社の社史において殆ど無視されている技術史にも多くのスペースを充てるほか、グローバルな視点から日本の鉄道の発展史をとらえることを目指しています。

原稿執筆は順調に進んでいましたが、一昨年来のコロナ感染症蔓延のため図書館などが閉館となり資料調査に支障を来すなど予期せぬ困難が生じたため、やむなく約 1 年延期し、2023 年度中に刊行することを目標として、最終段階の諸作業を進めているところです。

団体名



清瀬市
Kiyose City

〒204-8511

東京都清瀬市中里5丁目842番地

Tel:042-492-5111

URL:<https://www.city.kiyose.lg.jp/>

Email:y_kihara@city.kiyose.lg.jp

担当者:経営政策部参事 木原雄嗣

1 市の概要

東京都清瀬市は、都心からわずか25km 圏に位置しながら豊かな自然に恵まれ、「水と緑」、「集積する医療福祉施設と3つの大学」、「農のある風景」がまちの個性となっており、こうした個性を磨き、便利さと快適さを兼ね備えた魅力ある都市を目指しています。

西武池袋線清瀬駅から延びるけやき通りには国内外の彫刻家の作品が並ぶ「キヨセ・ケヤキ・ロードギャラリー」があり、市の北部を流れる柳瀬川流域は柳瀬川回廊として整備しています。このコースには、桜やカタクリ、彼岸花など四季折々の花が咲き、カワセミなどの野鳥も見ることができます。

2 鉄道車両保存活動

今後、清瀬市中央公園の再整備に合わせ園内に鉄道車両を設置し、鉄道文化財として保存・活用を図る予定です。

なお、車両の保存にあたっては、外装、内装ともに修復を行い、屋根を設置することで風雨や紫外線による劣化を防ぎます。

日本鉄道保存協会会員のみなさまには、鉄道車両の修復・搬出・搬入ならびに保存・活用について、ご教示賜りたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

鉄道車両の設置イメージ



| | | |
|-----|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 「横浜市電 1156 号保存会」 | Tel : 090-9015-3707 / 090-8036-2383 Email : yokohamashiden1156@gmail.com 担当者 : 齊藤 大起 (さいとう ひろき) https://yokohamashiden1156.jimdofree.com/ |
|-----|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

■団体の趣旨

横浜市港南・磯子区の久良岐(くらき)公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を修復・維持するとともに、毎月 1 回、車内を公開するイベントを開催しています。1156 号は 1952 年に製造され、横浜市電が 1972 年に全廃されるまで走り続けました。代表的な形式だった 1150 号型の最後の現存車両でもあり、貴重な存在といえます。車両を保存するだけでなく、電停や架線など周囲の情景も再現し、往時を知る人たちへの聞き取り活動も並行して続けながら、「街に市電が走っていた頃」を伝える「よすが」を目指しています。



▲輝きを取り戻した現在の 1156 号



▲照明を点灯した夕方の姿

■保存の経緯

2010 年末、神奈川新聞の記者(齊藤)が、荒廃していた 1156 号が解体されるとの情報を聞きつけ、管理当局の横浜市に修復など保存活動を申し出たことがきっかけです。当時は窓ガラスやドア、前照灯、尾灯、座席などの部品・機器類が全て失われ、とても哀れな姿になっていました。40 年近くにわたる屋外展示で風雨にさらされ劣化したことに加え、悪意ある人たちによる破壊、盗難などがその理由です。

時を同じくして、公園の近くに本社のある塗装業大手「サクラ」が、地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、横浜市環境創造局、サクラ、神奈川新聞社の 3 者で 1156 号の修復・保存を進めていくための覚書を締結しました。

修復作業は足場を組み、2 カ月を費やす大がかりなもので、失われていた窓ガラスやドアなどを極力再現。前後のライトや室内灯も点灯可能としました。座席は相模鉄道から寄贈していただきました。

さらに 2014 年には同局が車両周辺を大規模に改修し、擬宝珠のような飾り「ポールトップ」を載せた架線柱や、架線、それに電照式の電停標識も新調しました。道路から発掘された市電のレールを車両の前後に埋め込むことで、わずかながら路線の“延伸”も実現しました。

2020 年 12 月からは、横浜市電の運転・運行管理を楽しめるゲームアプリ「追憶の電車通り」(App Store, Google Play からダウンロード)の広告収益を、維持費に充当する仕組みも始まっています。



■横浜市電とは

1904 (明治 37) 年、民営の横浜電気鉄道として横浜市内に開業した路面電車。軌間 1372 ミリ。昭和 30 年代の最盛期には総延長 52 キロの路線を運行し、年間に 1 億 2 千万人を輸送したものの、道路の渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響を受け、1966 年以降、順次廃止が進み、1972 年 3 月 31 日に全ての路線がバスに置き換えられ、営業を終えた。他事業者への譲渡車両はなく、現存するのは横浜市磯子区にある「市電保存館」の 7 両のほか、市内に 4 両が残るのみ。

◀窓ガラスやドア、ライト、部品などが全て失われ、荒れ果てていた 2011 年当時の 1156 号

| | | |
|-----|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) | 〒 231-0012 横浜市中区相生町3丁目6-1 泰生ビル405号室 Tel/Fax 045-651-1730 URL : http://www.yokohama-heritage.or.jp/ Email : yh-info@yokohama-heritage.or.jp |
|-----|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

公益社団法人横浜歴史資産調査会の仕事

公益社団法人横浜歴史資産調査会は、内閣府認定の公益社団法人です。横浜市を含む全国の歴史的資産の調査、保存活用、普及啓発に関する事業に取り組んでおります。

横浜は、安政5年(1858)の日米修好通商条約により開港し、以後我が国の貿易の拠点として発展してきました。輸出品の多くは生糸。品質の良い生糸は特に欧州で人気を博し、莫大な富を得ました。その生糸の産地は、東北や関東甲信越をはじめ全国に分布。繭玉から製品化された生糸を横浜に運んだのは鉄道でした。

当公益社団では、横浜の発展に大きく寄与した生糸と鉄道に関連した事業も推進しております。

例えば、日本鉄道保存協会や全国シルクロード・ネットワークの代表幹事団体として事務局を担っております。また、関連の調査事業等も行っております。

◎2022年 鉄道150周年記念事業の実施

明治5年(1872)新橋—横濱間に鉄道が開業して150周年を迎えるのを機に「鉄道150周年記念事業」を行いました。この事業は、公益社団法人横浜歴史資産調査会と日本鉄道保存協会が力を合わせて行いました。

・鉄道開業150周年記念事業委員会の設置と開催
 委員長 古賀 学(当公益社団会長・松陰大学教授)、菅 建彦、小野田滋、齊藤大起、北村圭一、二階堂行宣、岡田直の各氏、オブザーバー 北河 大次郎氏。



京急ミュージアム (2022年9月16日)

- ・記念ロゴマークの作成 篆刻家 古田悠々子先生作品
- ・記念展示「私たちのまちの鉄道遺産～横浜・神奈川を中心として～」開催 写真展示約100点
 横浜みなと博物館特別展示室
 令和4年8月30日～9月16日
- ・鉄道遺産調査報告書「鉄道の記憶」A4判カラー58ページの発行・配布
 (全国近代化遺産保存活用連絡協議会からの受託)
- ・「全国近代化遺産活用連絡協議会 鉄道遺産部会」横浜フォーラムの開催
 令和4年9月15日
- ・「日本鉄道保存協会総会・講演会・シンポジウム・見学会」の開催
 令和4年9月16日、17日
- ・「歴史を生かしたまちづくりセミナー—鉄道の記憶を生かした横浜のまちづくり—」の開催 横浜市都市デザイン室と共催
 令和4年9月18日

◎湘南電気鉄道(現京浜急行電鉄) 瀬戸変電所の保存対策調査

横浜市金沢区・金沢八景駅構内に、昭和5年(1930)に開業した湘南電鉄の瀬戸変電所の保存活用に向けた調査を2017年度より実施。コンクリート鉄骨・鉄筋造りのモダン建築は歴史文化的価値が高く、当公益社団が取得・保存し鉄道文化の交流拠点として再利用し、将来に亘り保存活用を目指してまいります。



昭和4年(1929)建造の瀬戸変電所

| | | |
|-----|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 新潟市新津鉄道資料館 | 〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 TEL 0250 (24) 5700 FAX 0250 (25) 7808 E-mail : railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL : http://www.ncnrm.com/ 担当者：加藤 裕之 |
|-----|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

◆新津鉄道資料館概要

40年前の昭和58年10月14日、旧新津市が新津市鉄道資料館を開設しました。平成10年4月、旧国鉄の鉄道職員研修所「新潟鉄道学園」を買い取って改修し、二代目新津鉄道資料館として現位置に移転しました。平成17年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」となり、平成26年7月にリニューアルオープンしました。



E4系新幹線と115系電車

200系新幹線、C57形19号機蒸気機関車、485特急形電車、DD14形液体式ディーゼル機関車、E4系新幹線、115系近郊形電車、新幹線確認車GA-100を静態保存しています。新潟・新津地域の鉄道を地元と共に最大限活用する施設として、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。

◆施設概要

1. 位置 新潟市秋葉区新津東町2-5-6
2. 交通 信越本線新津駅下車バスで5分。磐越自動車道新津ICから車で2分
3. 建物 鉄筋2階建、延べ1,764㎡（屋外展示場除く）
4. 展示品 新潟・新津ゆかりの鉄道資料約800点
5. 特色 実物車両7両展示、電車運転シミュレータ、ミニSL(D51形の縮尺1/5)など

◆令和5年度事業

①9月9日～10月23日

開館40周年記念特別展「鉄道のまち新津」

節目の年を迎えるにあたり、あらためて鉄道という交通機関が地域の歴史に与えた影響について展示しています。

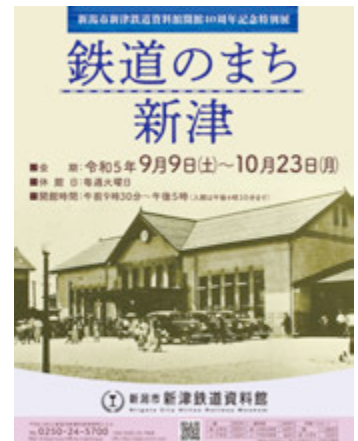
②4月～10月 土日・祝日を中心にミニSLを運行

③まちなか鉄道資料館

新津商店街に新津鉄道資料館所蔵大型資料を設置・展示（SL動輪・踏切警報機等）。商店街も各店で鉄道関連の品を展示

④鉄道模型走行会 新潟市内の鉄道模型愛好団体の協力を得て開催

⑤その他 実物車両車内公開ではコロナ禍のため見送っていたE4系の公開を再開。鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、他



◆実物車両展示



200系新幹線・SL C57形19号機



新幹線確認車 GA-100



DD14形機関車と485系電車



鉄道の仕組みコーナー



ミニSL「いつきてきち号」はお子さんに人気

団体名

長野県 上松町
赤沢森林鉄道

〒399-5601 長野県木曾郡上松町大字上松 159-4
上松町役場 Tel : 0264-52-4804 Fax : 0264-52-1038
URL : <http://www.town.agematsu.nagano.jp>
Email : syoukan@town.agematsu.nagano.jp
担当部署 : 産業観光課商工観光係

1987年の復活運行開始から36年、赤沢森林鉄道はコロナ渦の回復途中にありますが、コロナ以前の賑わいにはまだまだ達していません。

○2022年度長野県地域発元気づくり支援金事業を活用し、木曾森林鉄道再生プロジェクトを立ち上げました。7月～11月、群馬県より、よみがえれボードウィン実行委員会の方をお招きし、森林鉄道現役時に活躍した貴重な車体、森林鉄道 No.86の塗装作業を主に行いました(計13回)。一般参加の日を2日間設け、一般の方18名にも参加していただきました。



○プロジェクトを一般の方へ周知するための看板メニューとして、地元の特産品を使ったボードウィンカレーを開発し、試験的に提供しました。今後も期間限定で提供予定です。

○赤沢には日本で唯一の理髪車が保存されています。林業で長期間山に入る営林署員のために、木曾森林鉄道で1955年から1975年まで運行していた移動式床屋の車両のことです。「走る床屋」と呼ばれ、鉄道沿線を巡回し、約2万人もの髪を切ったそうです。コロナ前に行った理髪体験イベントで復活しました。2023年度も引き続き、体験イベントを行う予定です。

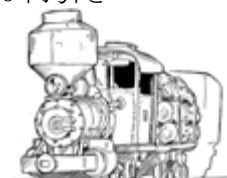


○1950年発売の理容椅子は、当時月700台も販売された大ヒット商品でした。販売会社のタカラベルモントさん曰く、おそらく公共の場で現役なものはこの理髪車にあるものが唯一なのではとのこと。

【赤沢森林鉄道 運行情報】

運行期間 : 2023年4月29日～11月7日 11月8日以降は冬期運休
運行時間 : 閑散期=10:00～15:00まで1時間毎、 繁忙期=9:30～15:30まで30分毎
料 金 : 中学生以上900円、 4歳～小学生600円 夏休みイベント期間は+200円
団体15名以上100円引き、 障がい者ご本人半額・介添え者100円引き

運行情報 : 上松町観光協会 <https://kiso-hinoki.jp/>



団体名

信濃追分駅舎・可惜（あたら会）

〒 389-0115

長野県北佐久郡軽井沢町大字追分 1092

Email : mm4007jp@yahoo.co.jp (河合)

2023年（令和5年）10月 信濃追分駅舎新聞 第5号 信濃追分駅舎・あたら会発行



shinano-oiwake stationhouse news

信濃追分駅舎新聞



軽井沢町商工会西軽井沢支部の土屋裕支部長から、しなの鉄道土屋社長に国鉄型駅名看板の贈呈状を手渡す

信濃追分駅舎が誕生百年を迎えました

十月七・八日の二日間、信濃追分駅舎で「百歳おめでとう！」イベントを開催。七日は国鉄型駅名看板の贈呈式、八日には駅前で馬子唄も披露されました。また両日にわたって写真展やマルシェ、本格的な珈琲店もオープン。百年記念駅弁も販売され、今後に向けて木造駅舎活用の可能性を探りました。

大正十二年(1923)十月一日が信越本線信濃追分駅の開業日(それ以前は臨時停車場)でした。木造駅舎もその際に建てられたもので、今年で百歳を迎えました。「あたら会」では八月には「しなの追分日曜朝市」に合わせて駅舎を開放。十月七・八日には「百歳おめでとう！」記念祭を開催しました。昨年、地元商工会の協力で国鉄型駅名看板を復刻し、七日午前にはしなの鉄道の社長を招いて贈呈式を行いました。これにあわせて有人出札口も復活し、利用客や硬券きっぷを求める鉄道ファンたちで賑わう二日間になりました。

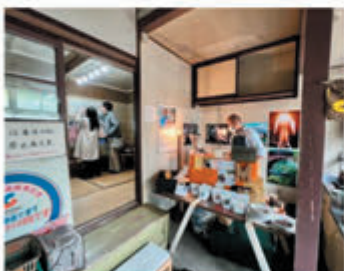


イベントの最後は、恒例の馬子唄で。追分節保存会と記念写真



昭和の駅写真を発掘

人形浄瑠璃を撮り続けた東京工芸大学名誉教授で写真家の池田陽子(1944〜2020)が、中等学校の寮があった信濃追分の風土を愛して、毎夏通い続けました。近年、昭和四十三年頃に信濃追分駅を撮影したネガが見つかり、駅舎ではその作品を展示。国鉄全盛期の写真から、さまざまな駅の謎が解明されました。



駅舎が古民家風カフェに、畳部屋が駅の歴史展示室に変身

駅弁や珈琲店も人気

今年は追分宿にある老舗「寿美屋」謹製の「高原花豆おこわ弁当」の駅弁が登場。昔ながらの駅弁販売員も出て、懐かしい駅風景を再現しました。駅舎では「あたら会」オリジナルグッズや高原野菜も販売。地元の自家焙煎珈琲店「MZコーヒーラボ」が出店し、駅舎が豊かなコーヒーの香りに包まれました。



115系電車と駅弁立売り、両日も昼過ぎに売り切れ

団体名

足久保鐵道株式会社

〒 420-0905

Tel : 054-207-7444 Fax :

URL :

Email : tamai-h@tokai.or.jp

担当者 : 玉井 宏政

今年は猛暑で外業がほとんどできませんでした。ビームジャッキを入手したためトラ16の平軸受けを修正しました。平軸受けの抜き出し・取り付けは経験者がほとんどいないため大変な作業でした。



ビームジャッキを2機入手できました



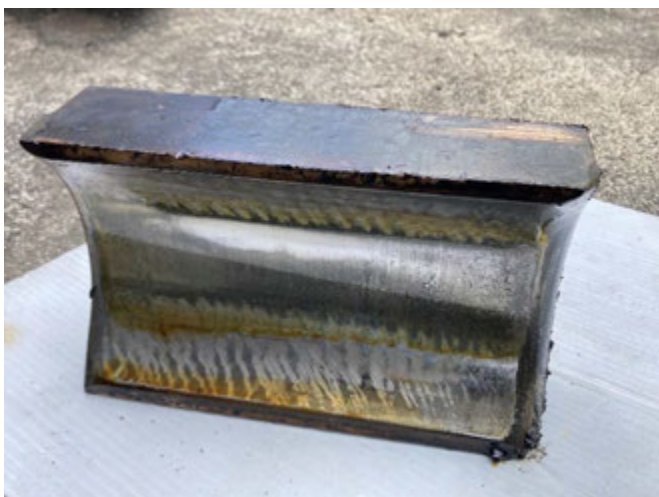
軸受けがずれており修正が必要でした



小ジャッキを使って軸箱を傾け抜取する



軸受けを抜き出して破損個所を修正しました。



軸受け面は良い状態でした



軸受けを抜き出した軸箱です

| | | |
|----------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団 体 名 | 大井川鐵道株式会社 | 〒428-8503 Tel : 0547-45-4113 Fax : 0547-45-4115 URL : oigawa-railway.co.jp Email : koji.sakamoto@daitetsu.jp 担当者 : 坂本光司 |
|----------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

本年度も「きかんしゃトーマス号」を2023年4月29日～12月25日までの121日間運転を実施、トーマス運行10年目の年となりました。大井川鐵道本線は、昨年9月の台風災害の影響により千頭駅までの運転が出来ませんので、新金谷駅～家山駅間2往復運転を行っております。2022年2月に兵庫県加東市より譲渡いただきましたC56135号機ですが、クラウドファンディングにて修復費用のご支援をお願いしたところ約8,000万のご支援をいただき、驚きとともに大変感謝いたしております。ご支援いただきました皆様のお気持ちにお答えできますよう、大切に活用させていただく所存であります。



本年度もトーマスイベント井川線のキャラクター「きかんしゃトビー号」がトーマス運行日に合わせて運転しております。奥大井湖上駅での星空観賞お楽しみいただく、星空列車を2023年11月～2024年2月までの（12月30日～1月1日を除く）土・日曜日を運転いたします。



| | | |
|-----|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 東海旅客鉄道株式会社 リニア・鉄道館 | 〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭三丁目2番2号 Tel : 052-389-6112 Fax : 052-389-6115 URL : https://museum.jr-central.co.jp Email : museum@jr-central.co.jp 担当者：〔運営企画・学芸〕加藤 |
|-----|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 入館料
- | | |
|----------|----------------|
| 大人 | 1,000円（団体800円） |
| 小中高生 | 500円（団体400円） |
| 幼児（3歳以上） | 200円（団体100円） |

※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
大人500円、高校生以下200円

- 休館日
毎週火曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始／12月28日～1月1日
- 展示
鉄道車両39両＋バス1台、鉄道のしくみコーナー
超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ
シミュレータ、シアターなど



【高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア】

【2022～2023年の活動報告】

- 第12回企画展（2023/3/8～2024/1/29）
『国鉄バス第1号車のすべて
～岡多線（岡崎－多治見、瀬戸－高蔵寺）を走った乗合自動車～』
※国鉄バス第1号車が重要文化財に指定（2022/3/22）



国鉄バス第1号車

- 技術展示（2023/6/21～2024/6/10）
『列車用トイレのひみつ』
新幹線用トイレが搭載された歴史やしくみについて紹介



381系（貫通扉開放）

- 381系中央本線走行開始50年記念イベント
381系貫通扉開放、特急「しなの」の歴史紹介
国鉄時代の在来線車両のジオラマ走行

- 新規イベント「THE こどもパスポート DAY」
こどもパスポートの所有者向けに特別開館

- 新規イベント「JR 東海バスコラボイベント！」
「ぴよりん」のラッピングバス、欧州製の2階建てバスと
「綱引き対決」「試乗体験」「記念撮影」



ぴよりんバス

- プラレールフェスティバル in リニア・鉄道館
「レール博士と名古屋の線路をつくろう！」

- ワークショップ
「小さな世界へようこそ！手のひらジオラマで感じる鉄道の世界」
『JR時刻表』の読みかた、楽しみかた ～旅行計画をたてよう！～
「ベアリングのしくみを知ろう！」 など



JR 東海音楽クラブコンサート

- その他
踏切事故防止キャンペーンに合わせた「踏切クイズラリー」
JR 東海音楽クラブコンサート など

| | | |
|-----|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 博物館 明治村 | 〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地 Tel : 0568-67-0314 Fax : 0568-67-0358 URL : http://www.meijimura.com/ Email : masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆 |
|-----|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

<蒸気機関車>

- (株)JR 西日本テクノスによる動態展示物の車両点検を3ヶ月に1回実施。
- 2020年9月にSL12号のオーバーホールを終了。その後、試運転中に板バネが破損。板バネ修理を実施し2023年4月より3年8か月ぶりに動態展示を再開。
- 2023年7月25日(火)にオーバーホールを実施のためにSL9号の搬出作業を実施。
- 転車台不具合の為、SL名古屋駅発SL東京駅行は逆機運転で運行中。※現在、転車作業は実施していません。
- SL12号のボイラー検査を8月3日(木)に実施。



<ハフ 11・13・14>

- (株)JR 西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。

<京都市電>

- (株)JR 西日本テクノスによる車両点検を3ヶ月に1回実施。

<設備工事・点検>

- 名鉄E I エンジニア(株)による電路・電気設備点検を半年に1回実施。
- 矢作建設(株)による軌道点検整備を半年に1回実施。

<蒸気機関車及び京都市電の動態展示>

蒸気機関車 SL12号が3両の客車を牽引します。※SL9号は現在オーバーホール実施中。

片道 大人 500円 小学生 300円

京都市電 1号車と2号車のどちらか1両が運行します。

1乗車 大人 500円 小学生 300円

SL市電一日券

乗り降り自由 大人 800円 小学生 500円



SL12号



京都市電

団体名

愛岐トンネル群 保存再生委員会

〒487-0004
Tel : 090-4860-4664
URL : <https://aigi-tunnel.org/>
Email : muramasa@mc.ccnw.ne.jp
担当者：村上 真善

- ◆年に2回（春・秋）に合計2週間の特別公開を開催しています。
期間中の来場者は全国から約3万人！
- ◆公開する1.7キロの廃線跡には4基（全体では13基）のトンネルがあり、廃線脇には、10枚の解説看板を設置しています。
- ◆都心近くで群生するモミジや豊かな自然が満喫できると廃線ウォークに人気が高まり、全国各地からだけでなく海外からの来場者も増加、インバウンド対応が不可欠となりました。

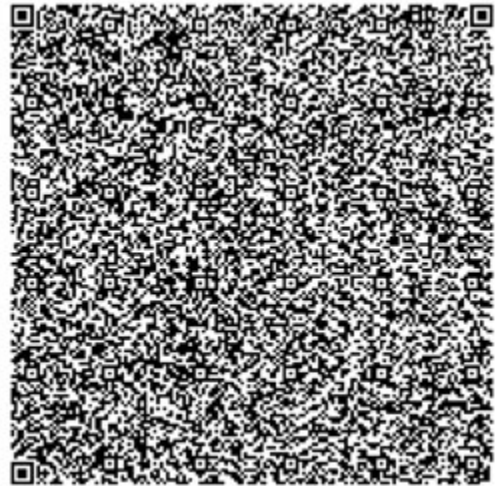
と、いうことで下記QRコードを作っちゃいました。

看板の翻訳言語は

英語、独語、仏語、韓国語、台湾語、ベトナム語、インドネシア語の7言語

注・お手元のスマホのQRコードスキャン機能で下記QRコードを読み取ってください。
さすれば・・・・・・・・

旧国鉄トンネル群の廃線跡に、ようこそ！
この路線は1900年に名古屋から岐阜県多治見市まで開通しました。その後、木材や良質の陶土や陶器がこの鉄路により名古屋へ運ばれ「日本を代表するものづくり中部圏」の基礎を作り上げる大きな役割を担いました。1966年に廃線となった後、2006年に市民らにより“発見”されるまで、40年余り断崖の中眠っていました。身近にありすぎ気づくのが遅れたこの施設群は、幸いなことに文化庁はじめ経済産業省や国土交通省に貴重な産業遺産・近代化遺産として高い評価をいただきました。そして発掘・再生に取り組んで15年が経ち、8基・13基のトンネル群を有する廃線の全体像のうち、1/3を解明・再生するに至っています。半世紀の眠りを超えて再登場したこの施設群が再び藪の中に埋もれることなく、“市民の誇り”（シチズンプライド）として、いや国民の誇りとして未来へつないでいかなければなりません。現在、愛知県尾張と岐阜県東濃地方をつなぐルートは鉄道以外では国道19号線と愛岐道路の2本しかありません。いつの日にかこの廃線開拓が岐阜県多治見まで延びて、人に優しい第4のルート「愛岐トンネル群ネイチャーロード」としてよみがえることを願ってやみません。
愛岐トンネル群保存再生委員会



ぜひ皆さんもチャレンジしてください！

注意事項

- ・日本語は700文字程度までしか入りません。
- ・英語なら1文字が半角なので、1400文字程度まで。
- ・QRコード製作ソフトは、ネットに氾濫していますが、デンソーが信頼性ありそう。

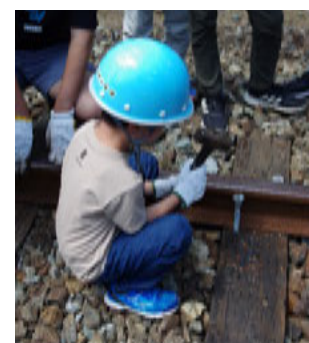
団体名

NPO 法人
神岡・町づくりネットワーク

〒 506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲
1327-2
Tel : 0578-82-6677 Fax : 0578-82-6677
URL : <https://rail-mtb.com/>
Email : info@rail-mtb.com
担当者 : 田口 由加子

第14回枕木交換会を開催しました

2023年6月4日(日)、一般のお客様を募集して行う枕木交換会を開催しました。今回は約40名様参加で5本の枕木を交換しました。今回はファミリー層のご参加が特に多く、とても賑やかな交換会となりました。



廃線印を始めました

2023年のレールマウンテンバイクの営業スタート時から「廃線印(はいせんいん)」の販売を始めました。「鉄印」を見様見真似で作成し、ガッタンゴー!!の2つのコースでそれぞれの廃線印を1枚300円(税込)で販売しております。「鉄印」のような立派な帳面はありませんが、神岡鉄道の面影を求めてご来駅くださるお客様には程よく記念になるお土産品となっております。



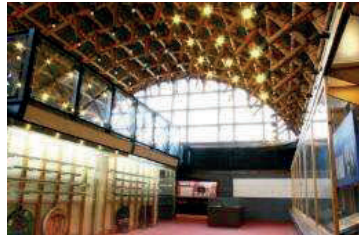
現在、全国の廃線の利活用事業者様に向けてこの「廃線印」企画のご賛同を募っております。常時販売もよし、イベント時だけのプレミアム販売もできるとても小回りの利くお土産品です。目指すは夢の「廃線印帳」！詳しくは左のQRコードから企画詳細をご覧ください。



■旧長浜駅舎 明治15(1882)年3月10日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。1983年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。2020年6月19日、旧長浜駅舎を含む鉄道遺産「海を越えた鉄道～世界へつながる 鉄道のキセキ～」が認定されました。2022年は、鉄道150年と同時に長浜駅開業140年の記念の年となりました。

■長浜鉄道文化館 公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として2000年10月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

■北陸線電化記念館 鉄道文化館と同様の趣旨で2003年7月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。D51形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のED70の1号機を展示しています。



2022年度 開催企画展・イベントなど

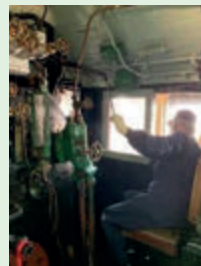
【企画展】

- 鉄道写真家“清水 薫”追悼写真展 【2022/4/8～6/30】
- 鉄道開業150周年記念「みんなの新幹線展」 【2022/7/16～10/10】
- 子どもはぐくむ日本の汽車展 【2022/10/15～12/28】
- 第2回長浜鉄道スクエア鉄道写真コンテスト作品展 【2023/1/11～3/31】

【セレモニー・イベント】

- 長浜駅開業140年記念イベント開催

日本の鉄道開業150年と長浜駅開業140年を記念し、静態展示をしているD51の汽笛を改修し吹鳴セレモニーを開催。それに合わせて夏と秋にイベントを開催しました。



第2回長浜鉄道スクエア写真コンテスト 最優秀賞「うらら うらら♪」



2023年度の事業・イベント

【現在開催中】■出発進行！TRAIN ART 展 in 長浜～アートで感じる鉄道の魅力～ 【2023/10/2～12/28】

【現在募集中】■第3回長浜鉄道スクエア 鉄道写真コンテスト

募集テーマ：ふるさとの駅と鉄道

募集期間：2023/11/30まで

審査委員：委員長 猪井貴志氏（日本鉄道写真作家協会会長）

委員 山崎友也氏（レイルマンフォトオフィス代表）

委員 米山淳一氏（長浜鉄道スクエア名誉館長）

賞：最優秀賞・・・1名／優秀賞・・・1名

長浜鉄道スクエア賞・・・1名／入選・・・27名



公益社団法人長浜観光協会

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町3-24 えきまちテラス長浜

TEL.0749-53-2650 FAX.0749-53-3161

E-mail. kankou@kitabiwako.jp https://kitabiwako.jp/tetsudou



| | | |
|-----|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 (事務局：敦賀市観光交流課) | 〒914-8501 Tel：0770-22-8128 Fax：0770-22-8184 Email：kankou@ton21.ne.jp 担当者：高鳥 真珠子 |
|-----|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|

○協議会概要

長浜市・敦賀市・南越前町に現存する明治時代の鉄道遺産など、近代化遺産を活用した広域的な観光連携を推進するため、平成29年10月19日に、長浜市・敦賀市・南越前町の3市町において連携協定を結び、協議会を設立しました。

当協議会では、明治15年に日本海側で最初に開業した長浜ー金ヶ崎(敦賀)間の鉄道の歴史や、敦賀ー今庄間の急勾配の峠越えなどを含むストーリーを活かし、県境をまたいだ広域観光を推進していきます。

○令和4年度事業実績

①4月～3月 トンネルカード増刷・配布

②小中学生、高校生向けガイド体験・ワークショップの開催

- ・長浜編 令和4年12月4日(日) 小中学生向け
- ・敦賀今庄編 令和5年1月29日(日) 中高生向け

③9月1日(木)～9月30日(金) 浅草文化観光センターでのパネル展実施

④多言語対応ガイド向け研修

- ・1回目 1月23日(月) 講座
- ・2回目 1月26日(木) 講座
- ・3回目 2月2日(木) 実地研修

⑤10月29日・30(土・日) 日本遺産サミット等への参加

⑥長浜鉄道スクエア展示リニューアル

⑦旧北陸線トンネル群周辺環境整備(扁額のレプリカ設置)

⑧案内看板の整備(案内・説明看板の設置)

⑨今庄まちなみ情報館展示リニューアル



鉄道遺産紹介 YouTube
(10分動画)

特定非営利活動法人
団体名 **貨物鉄道博物館**

事務局(三岐鉄道株式会社内)
〒510-8014 三重県四日市市富田3丁目22-83
TEL:059-364-2141 E-
mail:frm_office@sangirail.co.jp
URL:http://frm.kans.jp/

■2022年度の活動経過

2022年度は、大物車シキ160形160の修復披露を行った。



修復が完了した
日本AE/パワーシステムズシキ160
2022/10/26

■2023年度の活動計画

2023年度は、開館20周年事業で、旧関西鉄道鉄製有蓋車下回り復元のクラウドファンディングを実施し、成立のため復元作業進行中。



関西鉄道鉄製有蓋車復元中
2023/7/23

◆2023年度定期開館日

2023年4月2日(日)、5月7日(日)、6月4日(日)、7月2日(日)、8月6日(日)、9月3日(日)、10月1日(日)、
11月5日(日)「20周年記念イベント」、12月3日(日)、2024年1月14日(日)、2月4日(日)、3月3日(日)

| | | |
|-----|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 西日本旅客鉄道株式会社 | 〒600-8835 京都府京都市下京区観喜寺町 Tel : 075-313-3374 URL : https://www.westjr.co.jp/ (JR 西日本) http://www.kyotorailwaymuseum.jp/ (京都鉄道博物館) Email : hotaka-kawaguchi02@westjr.co.jp 担当者 : 川口 穂高 |
|-----|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

1. 京都鉄道博物館

西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）が所管する京都鉄道博物館は、2023年4月に開業7周年を迎えました。

京都鉄道博物館では、本物の蒸気機関車が牽引する「SLスチーム号」や「引込線車両展示」、現役のJR社員が子供達に鉄道のお仕事を解説する「鉄道おしごと体験」など、楽しく学べる企画がいっぱいです。加えて「運転シミュレータ」や「鉄道ジオラマ」も大人気！

SLスチーム号



運転シミュレータ



鉄道ジオラマ



引込線車両展示



DEC71 形電気測定車



113 系近郊型電車

鉄道おしごと体験



2. 鉄道文化活動

JR 西日本では、京都鉄道博物館を中心に、当社エリア内の鉄道文化財を保存・管理し、これらを活用する鉄道文化活動を推進しています。

当社エリア内の鉄道文化財(例)



マイテ 49 形 1 号車



和田岬線旋回橋

団体名



公益財団法人
交通文化振興財団

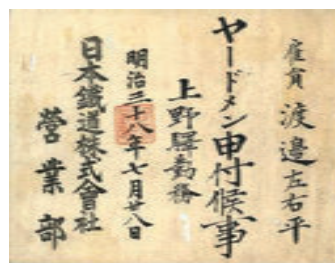
〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目2-26
天神第一ビル1004号室
Tel : 06-6309-5113 Fax : 06-6309-5114
URL : <https://tcpf.or.jp/>
担当者：事務局交通資料調査センター

○交通資料調査センターの活動

当財団の交通資料調査センターでは、交通の歴史と文化を未来へ継承するために、交通に関わる歴史資料の収集・保存や各地に残されている歴史遺産の調査活動を実施しています。

歴史資料の収集・保存

交通の歴史や文化に関わる文書類、写真、記念品、記録、文献等の資料類の散逸を防ぐため、それら資料の収集・保存を実施しています。収集方法は主に皆様からの寄贈で、昨年度は52件約4,300点の資料を寄贈いただきました。また、所蔵資料のデジタルデータ化を進め、その一部は、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」で公開しています。



歴史遺産調査

交通に関わる歴史的・文化的事物の現地調査等を実施し、現状を写真や記録にして後世に伝える活動を進めています。他団体様からの依頼による調査や共同での調査にも対応しておりますので、お気軽にご相談ください。



交通の歴史遺産や歴史資料の保存・活用の意義を周知するため、他団体様と共同での講演会・見学会なども行っています。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄附により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

交通文化振興財団



団体名



旧加悦 S L 広場

宮津海陸運輸(株)

〒629-2251 京都府宮津市字須津413

TEL 0772-46-1155 FAX 0772-46-1166

近況

■ 旧加悦 S L 広場〔全27両〕の車両譲渡状況のご報告

加悦鉄道車両群を1両でも多く残すべく、NPO加悦鉄道保存会様をはじめ各方面の皆様からのお力添えを頂きながら譲渡、協議を進めております。今年度はキハユニ51の保存先が決定し、無事、引渡しを終えました。保存にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



下記情報は2023年9月30日現在

① 保存譲渡 完了 11車両

キハユニ51 搬出の様子

| | 車両名 | 所有者・保存先 | 地域 |
|----|----------------|-----------------------|-----|
| 1 | 123号蒸気機関車 | 与謝野町（加悦鉄道資料館 旧加悦駅舎） | 京都府 |
| 2 | ハブ3木造客車 | | |
| 3 | ハ4995木造客車 | | |
| 4 | 103号蒸気機関車 | 長門ポッポを守る会（道の駅 蛸街道西ノ市） | 山口県 |
| 5 | 1216号蒸気機関車 | 個人有志 * 未公表 | 関西 |
| 6 | ハ21木造客車 | | |
| 7 | DC351 ディーゼル機関車 | 五戸町（ごのへ郷土館） | 青森県 |
| 8 | TMC100モーターカー | 若線 S L 遺産保存会（若桜鉄道八東駅） | 鳥取県 |
| 9 | 京都市電 N 5 号 | (株)西鶴（和泉市ハピネスパーク霊園内） | 大阪府 |
| 10 | ワブ3 | NPO貨物鉄道博物館 | 三重県 |
| 11 | キハユニ51ディーゼルカー | 個人有志（車両ヤード福岡） | 福岡県 |

② 保存譲渡 内定 4両

（保存地域は現段階の引受者様の計画場所）

| | 車両名 | 譲渡・保存先 | 保存地域 |
|---|---------------|--------------------------|------|
| 1 | ト404貨車 | (一社)南部縦貫鉄道レールバス愛好会（旧七戸駅） | 青森県 |
| 2 | キハ1018ディーゼルカー | * 未公表 | 関西 |
| 3 | キハ083ディーゼルカー | | |
| 4 | DB202ディーゼル機関車 | * 未公表 | 未定 |

③ 希望者と協議済み回答待ち 10両

（保存地域は現段階の引受者様の計画場所）

| | 車両名 | 希望者 | 保存地域 |
|----|---------------|-------------------|------|
| 1 | 4号蒸気機関車 | * 未公表 | 関西 |
| 2 | モハ1202電車 | * 未公表 | 関西 |
| 3 | サハ3104（改造車） | * 未公表 | 関西 |
| 4 | ハ10木造客車 | * 未公表 | 関西 |
| 5 | C57189蒸気機関車 | * 未公表 | 関西 |
| 6 | キ165ラッセル車 | * 未公表 | 関西 |
| 7 | ヨ2047車掌車 | * 未公表 | 関西 |
| 8 | DB201ディーゼル機関車 | NPO加悦鉄道保存会（与謝野町内） | 京都府 |
| 9 | キハ101ディーゼルカー | | |
| 10 | フハ2木造客車 | | |

④ 保存希望者募集中 2両

| | 車両名 | 備考 |
|---|--------------|-------------------------|
| 1 | KD-4ディーゼル機関車 | 5月エンジンの始動を確認 |
| 2 | C58390蒸気機関車 | 9月末現在 引取希望 1件 譲渡に向けて調整中 |

車両譲渡諸条件： 車両無償譲渡（加悦 S L 広場 現状有姿渡し）
運搬・搬出等にかかる費用は引受者様負担にて

車両の保存先を募っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

以上

団体名

特定非営利活動法人
加悦鐵道保存会

〒629-2403
京都府与謝野町加悦433番地 旧加悦鐵道加悦駅舎
TEL/FAX 0772(43)0232
HP <http://kayatetsu.web.fc2.com/>

■ 2022年9月～2023年8月までの主な活動



丹鉄フェスタへの出展



「きものでぶらり♪ちりめん街道」
に協賛出展



C160 蒸気機関車の整備



○ 加悦SL広場閉園後は、指定管理を受託している加悦鐵道資料館の運営を行いながら、残された車両の整備をしつつ加悦鐵道の歴史を後世に伝えるべく活動をすすめています。

○ ホームページのご案内
その他活動等につきましてはホームページに掲載しておりますので、こちらをご覧ください。

<http://kayatetsu.web.fc2.com/>

若桜駅を元気にする会

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5
若桜町役場 企画政策課内
TEL:0858-82-2231
FAX:0858-82-0134
E-mail:kikaku@town.wakasa.tottori.jp

若桜駅・駅周辺の近況



新型コロナウイルスの5類移行を受け、令和5年4月より若桜駅で蒸気機関車(C12 167)やディーゼル機関車(DD16 7)を使用した運転体験が再開されました。おかげさまで年間の予約は満員となり、グループなどによる貸切運転体験や撮影会などの申し込みも多数入っている状況です。貴重な鉄道遺産を活用した鉄道会社の増収策、まずはアフターコロナへ向けて順調な滑り出しとなりました。

若桜駅を元気にする会の取り組み

沿線景観改善活動

今年の春も若桜駅を元気にする会が植栽した沿線の菜の花やスイセンが線路際を飾りました。

また、沿線各駅の団体と協力して若桜駅構内に鯉のぼりの飾り付けや、若桜鉄道の委託を受けて駅構内の植栽事業なども行いました。



SL等活用検討委員会への参加

若桜鉄道の存続に向けてSL観光列車導入を目指した「若桜駅SL保存会」が当会の前身団体ですが、若桜駅に保存されている車両のさらなる有効利用を検討する若桜町主催SL等活用検討委員会に丹松会長及び藤原顧問が参加し、協議に臨んでおります。

また、貴重な動態保存車両や鉄道施設などの文化財を活用した町おこしについて機運を醸成するべく、12月に日本鉄道保存協会米山事務局長様他をお招きして講演会を開催する予定でおります。

SL走行社会実験(平成27年4月)の光景



特定非営利活動法人

NPO市民文化財ネットワーク鳥取

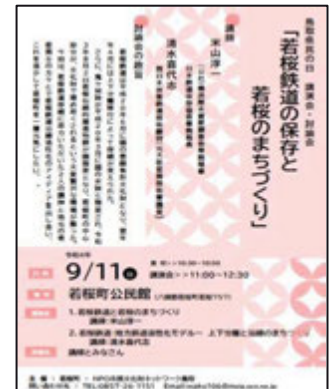
〒680-0011 鳥取市東町1丁目201
TEL:0857-26-1151
Mail:wako106@theia.ocn.ne.jp
HP:https://shiminbunkazai.net/

活動報告1:鉄道とまちづくりに関するフォーラムの開催

令和4年9月10・11日と連続して、鉄道を軸にまちづくりを考えるフォーラムを鳥取市と若桜町で開催した。ローカル鉄道の存続や将来に注目が集まる中、まちづくりや地域の暮らしの核としての鉄道の在り方について、2名の講師からご講演いただくとともに、県内の鉄道保存活動を行っている識者を交えたパネルディスカッションや参加者からの質疑応答を行った。両日合わせて100名以上の参加があり、改めてローカル鉄道の存続とまちづくりの在り方について、地域の方々を含めて多くの方が関心を寄せていることを実感した。



↑当日の後援会の様子 →広報用パンフレット



活動報告2:ローカル線沿線地域との連携協力

山陰本線鳥取駅と姫新線東津山駅を結ぶ地方交通線因美線の鳥取県と岡山県にある鳥取県側の駅である那岐駅(智頭町)は、昭和7年(1932)開設し、築後90年の建造物である。

この路線はJR各社のスリム化計画の影響で存続が厳しくなっており、地元住民を中心として結成された「那岐駅を守る会」の運動を支援している。現在、智頭町はこの駅舎を診療所とデイサービス施設として利用し、鉄道利用以外の駅舎利用を模索し注目を集めている。令和4年8月5日には、鳥取・岡山両県の知事が那岐駅を守る会の駅舎を訪れ、地方鉄道の存続のために協力する意欲を示した。また、「因美線を愛する会」が行った美作加茂駅・那岐駅・智頭図書館でのパネル展への協力及び因美線に対するアンケート調査への実施、80周年事業へ参加するとともに、令和5年5月に行われた「みまさかスローライフ列車」の運行に合わせて那岐駅で地元特産物の販売等が行われ協力した。

活動報告3:鳥取の鉄道開設120周年を記念した新聞連載への協力

明治35年11月1日に境(現:境港)から米子(御来屋)間36.7キロを結ぶ山陰発の鉄道が開業され山陰鉄道の歴史が始まり令和4年で120周年を迎えた。このことを記念し『とつとりの鉄道120年〜今、見つめなおす鉄道への思い』の新聞連載が開始されることになった。記事の寄稿等をはじめ連載に対し協力をを行い、県民の鉄道に関する関心を高めている。

| | | |
|-----|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 山口線 S L 運行対策協議会 | 〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号 山口県観光プロモーション推進室内 Tel : 083-933-3204 Fax : 083-933-3179 URL : http://www.c571.jp/ E-mail : c571@c571.jp 担当者：山本 康幸 |
|-----|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

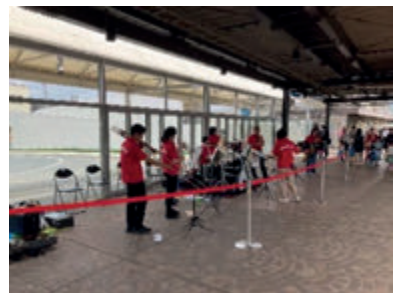
令和5年 DLやまぐち出発式を実施

- 3月18日(土)の今シーズンの運行開始日に合わせ、新山口駅で出発式を実施しました。
 - 当日は、山口県ハーモニカクラブによる演奏や山口市観光アンバサダーによる観光パンフレットの配布を行い、式典を盛り上げました。
 - そのほか、車内や沿線でのおもてなしを実施したほか、終点津和野駅では歓迎イベントを実施しました。
- ※昨年発生したS Lの故障により、DLやまぐち号が活躍し、山口線を盛り上げております。



山口線全線開通100周年DLやまぐち号夏季運行出発式を実施

- S Lやまぐち号の運行する山口線の全線が開通して100周年であることを記念して、夏季運行初日の7月15日(土)に出発式を実施しました。
- 当日は、市民楽団による吹奏楽の演奏や地元特産品である「徳佐りんご」を使用した限定スイーツの販売を行いました。



S Lやまぐち号の運行について

令和4年5月3日に不具合が発生したため、現在はS Lやまぐち号運行を行っていません。
 運転再開時期は、未定です。(令和5年10月時点)

最新の情報は、公式HPからご確認ください!

S Lやまぐち号

検索



団体名

愛媛県西条市
鉄道歴史パーク in SAIJO

〒793-0030

Tel : 0897-47-3855

Fax : 0897-53-6200

URL : <https://s-trp.jp/>

Email : tetsudobunka@saijo-city.jp

担当者：西条市観光振興課 渡部 泰

愛媛県西条市のJR伊予西条駅に隣接する鉄道歴史パーク in SAIJO は、新幹線の父・十河信二氏ゆかりの地に誕生した四国初の本格的な鉄道資料館「四国鉄道文化館（北館・南館）」と「十河信二記念館」、鉄道グッズや特産品を販売する「観光交流センター」からなる西条市の観光・交流エリアです。

十河氏の象徴とも言える0系新幹線電車をはじめ、DF50形ディーゼル機関車1号機、C57形蒸気機関車、キハ65形急行用気動車、DE10形ディーゼル機関車1号機、フリーゲージトレイン第2次試験車の計6両を展示しています。

◆伊予西条鉄道フェスタ2022

JR四国の協力のもと、軌道モーターカー・バラスト運搬散布車や軌陸車の展示、HOGページ運転会、ミニSL乗車会などの楽しい鉄道イベントを実施し、延べ2,720人の来場者で賑わいました。



◆通票閉塞器体験セミナー

かつて四国内で使用され、長らく倉庫で眠っていた『通票閉塞器』を日本鉄道保存協会の会員各所のご協力をいただき、実際に2台が連動して可動するよう整備しました。通常は展示のみですが、日を決めてイベントを企画しており、懐かしい音とともに「通票閉塞方式」を体験することができます。

◆アンパンマン列車模型展

夏休みを中心に、四国鉄道文化館北館においてJR四国が『アンパンマン列車模型展』を実施しました。実際に走っているアンパンマン特急やトロッコなど、1/25の精巧な車両模型やその歴史を紹介したパネルなど24枚が展示され、たくさんのチビ子ファンで賑わいました。



◆0系ぷらす

0系新幹線のお掃除会&勉強会を3か月に1回実施しています。新幹線についてのお勉強をしたあと、客室や車体などのふき掃除、汽笛吹鳴、連結器出し入れ作業などが体験できる、チビ子たちに好評のイベントです。

(他に、「C57ぷらす」や「DF50ぷらす」を行っています。)

◆軌道自転車体験乗車会

館内には、JR四国の伊予西条駅の構内からの、「引き込み線」があり、その一部を使い、軌道自転車（通称：レールスター）の体験乗車会を実施しています。保線作業や線路巡回などで使用されていた4人乗りのレールスターで、ガタゴトと線路の継ぎ目を感じながらの走行を体験できます。



馬路村 やなせ 魚梁瀬森林鉄道

〒781-6202

高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11

馬路村役場魚梁瀬支所

TEL : 0887-43-2211 FAX : 0887-43-2208

E-mail : yanase@vill.umaji.lg.jp

URL : <http://www.umajimura.jp/>

古くから高知の林業は栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治44年に、国内3番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正6年には本線終点の石仙まで軌道が伸びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長250kmといわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

しかし、昭和32年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。33年から軌道の撤去がはじまり、38年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成21年に橋梁や隧道など18箇所（馬路村内では4箇所）が国の重要文化財の指定を受けました。同年には経済産業省の近代化産業遺産群にも9基（馬路村内では2基）が認定されました。広域（馬路村を含めた中芸5ヵ町村）で国の重要文化財の指定を受けるのは、我が国初のことです。

平成29年度、森林鉄道の遺構が残る中芸5ヵ町村が申請した「森林鉄道から日本一のゆずロードへーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー」が日本遺産に認定されました。

そこで、本年11月3日（金）から5日（日）まで、「第1回全国森林鉄道サミットin高知&中芸日本遺産フェスティバル」が高知県東部の中芸地域を舞台に、今もなお息づく森林鉄道の歴史に触れながら、地域の日本遺産を知る3日間の大イベントが開催されます。森林鉄道が結んだこの絆は、今後の保全活動や地域振興等に取り込まれる全国各地の皆様とつながる連帯のルールとなることでしょう。

●馬路森林鉄道

実物の3分の2の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約300mの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路 馬路温泉前

◎運行日／日、祝日 8時30分～16時

[8月は毎日運行]

◎料金／乗車大人400円など

◎お問い合わせ／馬路温泉

TEL:0887-44-2026

●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転身体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬 丸山公園内

◎運行日／日、祝日 10時00分～12時、13時～15時30分

[8月は土曜も運行]

◎料金／乗車大人400円、運転体験1,000円など

◎お問い合わせ／集落活動センターやなせ

TEL:0887-43-2055



団体名

九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566

Tel : 092-474-2541 Fax : 092-474-3898

URL : <https://www.jrkyushu.co.jp/>

Email : tom.nakamura@jrkyushu.co.jp

担当者：中村 智和

《SL 人吉ラストイヤーの取り組み》

SL 人吉は運行開始から 100 年以上の年月を経て、2024 年 3 月に引退します。

●SL 人吉の歴史

SL 人吉(58654 号機)は 1922 年 11 月 18 日に誕生。

- ①浦上機関区(長崎)に新造配置
- 以降、②若松(福岡)→ ③吉松(鹿児島)→
- ④鹿児島→ ⑤豊後森(大分)→
- ⑥鳥栖(佐賀)→ ⑦吉塚(福岡)→
- ⑧西唐津(佐賀)→ ⑨若松(福岡)→
- ⑩人吉(熊本)と九州各地で活躍しました。



昭和 30 年代 昭和天皇お召列車牽引時の 58654 号機

●近年の SL 人吉

2009 年 4 月より「SL 人吉」として肥薩線 熊本～人吉間で運行を開始。その後、令和 2 年 7 月豪雨の影響により肥薩線八代～吉松間が不通となったことにより、2021 年 5 月からは鹿児島本線鳥栖～熊本間で運行しております。



肥薩線 第一球磨川橋りょうを渡る SL 人吉

●「ありがとう！SL 人吉」ラストシーズンの取り組み

～「SL 人吉」の思い出をつくる一年に～をテーマに、「SL 人吉」の絵の募集や、SNS を使ったアルバム作成など、皆さまと一緒に「SL 人吉」の思い出をつくる企画を多数展開しています。

また、宣伝展開としても、これまでお客さまからいただいたメッセージを「SL 人吉」の煙に見立てたポスターを制作し、駅や車内で掲出しているほか、「ありがとう！SL 人吉」専用ホームページ開設し、さまざまな企画についての詳細な情報を発信しています。最新の情報は、こちらの URL よりご確認ください。

<https://www.jrkyushu.co.jp/trains/sllastyear/>



2023 年 4 月 8 日熊本駅でのラストシーズン運行開始セレモニー



「ありがとう！SL 人吉」宣伝ポスターの一例

北九州線車輛保存会

お問合せ

〒818-0003

福岡県筑紫野市大字山家4930-1

07041717738 代表 手嶋康人

teshi729@yahoo.co.jp

2023年活動報告



保存車輛ヤード福岡に勢ぞろいした仲間達
往年の西鉄軌道線の車輛が一同に会する保存会の長年の夢が叶いました。

筑豊電鉄2002号輸送



筑豊電鉄2002号の廃車に伴い、筑豊電鉄株式会社様より譲渡頂きました。

福岡市内線花電車（鹿児島市交通局花2号）輸送



鹿児島市交通局花2号を譲渡頂きました。



2015年12月9日 国道4号線を走る EF81 138号機



2015年12月10日 国道4号線を走るオハネフ 25-12

日本鉄道保存協会

〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目61番地 泰生ビル405号室



公益社団法人 横浜歴史資産調査会 内

電話／FAX: 045-651-1730

URL <http://www.rpsj.jp/>

E-mail info@rpsj.jp